

日小連 共育ブック 追記版

目 次

- 1 共育ブック追記版発行に寄せて 工藤 憲 (日小連会長)
- 2 ジュニアアストリートの栄養管理 杉山明美 (日小連副会長)
- 3 怒ってはいけない大会を通して 益子直美 (日スポ少本部長)
- 4 部員増になったチームの特徴とチーム運営 【コンプライアンス委員会 監修】
 - (1) バレーボールアンケート (子どもたちからの声)
 - (2) メンバー増を成しえているチームの取り組み
 - (3) 子どもたちと作るポスター
- 5 コンプライアンス規定違反から学ぶ
 - (1) 悪質な事例
 - (2) 報告書から見えてくるもの
- 6 各ハラスメントへの対応例 (フローチャートやスキーム図)
- 7 不祥事防止のために
 - (1) 指導スタイルの見直し (意識改革)
 - (2) 相手に伝わる話し方
 - (3) 子どもとの対話には術 (スキル) がある
- 8 支援・指導のむずかしい子どもたちへの対応
 - (1) 愛着障害と発達障害の理解と愛着の問題への支援
 - (2) 幼児・児童生徒にたいする理解と支援のあり方
 - (3) 支援・指導のむずかしい子を支える魔法の言葉～「話せばわかる」が通じない～
- 9 具体的な研修のすすめ方 (例)
 - (1) 全国コンプライアンス委員長会議
 - (2) 愛媛県小連コンプライアンス研修会
- 10 各都道府県コンプライアンス委員会の活動例
- 11 指導者と保護者のよき関係を構築していくために
- 12 これからのチームづくり 【指導普及委員会 監修】
 - (1) PDCA サイクルによるチーム運営
 - (2) 選手主体のチームづくりへ
 - (3) 選手主体・全員活動型の練習体制 (具体例)
 - (4) モデル型からコーチング型へ
- 13 大会時のベンチマナーについて 【審判委員会 監修】
- 14 指導者の誓い 【競技委員会 監修】

終わりに

1 共育ブック追記版発行に寄せて

日本小学生バレーボール連盟 会長 工藤 憲

この度、日本小学生バレーボール連盟は、コンプライアンス委員会が中心となり「共育」ブックの追記版を発行することになりました。前回発行した「共育」ブックは、多くの方に読んでいただき、たくさんのご支持をいただきました。

しかしながら、コンプライアンスに関する事案の残念ながら減少に至ってはおりません。

事案の内容は、変わってきておりますがその数は相も変わらないのが現状です。

コンプライアンス事案ゼロが私共組織の目標です。

私共組織の親協会であります公益財団法人日本バレーボール協会(JVA)も、2023年3月に「暴力撤廃アクション」をスタートいたしました。JVAと加盟団体である日小連が一体となりコンプライアンス事案ゼロに向けて、一層取り組みを強化しなければならないと思っております。そのような願いのもとこの追記版を作成いたしました。

コンプライアンス事案を分析してみますと、子どもたちのやる気(モチベーション)を高める一方策として、「アメとムチ」を与える(特にムチ)外発的動機付けに頼っている場合が多いように感じます。もっとスポーツが本来持っている楽しさを前面に出し、知的好奇心、達成感、自己有能感等を喚起する内発的動機付けでモチベーションアップを図るべきではないかと思っています。そのヒントがこの追記版にもありますので、是非多くの方々に読んでいただきたいと思いますと思っております。

一つ一つのコンプライアンス事案が、小学生バレーボールの信頼を失墜させ、発展の大きな妨げとなっております。

私共の組織は、社会の信頼を得、自主自立の歩みを行うため法人化に向けて準備を進めております。そのような中でのコンプライアンス事案は、大きなマイナスとなってしまいます。

一部の指導者の不適切な指導が小学生バレーボール全体のイメージダウンにつながり、普及・発展の妨げになることは許されることではありません。

第43回全日本バレーボール小学生大会のテーマは「コートにあふれる笑顔と歓声」でした。このテーマは、43回大会に限ってのことではありません。

いつでも、どこでも、コートに子どもたちの笑顔と歓声があふれているのが小学生バレーボール真の姿だと思っております。

小学生バレーボールのど真ん中にいるのは子どもであり、社会や時代がどのように変わろうともこれは不易のテーマです。

最後に、この追記版が指導者の皆様の明日からの指導に少しでも役に立ち、小学生バレーボールの更なる普及・発展の一助になることを願っております。



2 ジュニアアスリートの栄養管理

日本小学生バレーボール連盟 副会長 杉山 明美

今期より、日本小学生バレーボール連盟副会長に就任された杉山明美氏は、元日本代表選手であり、日本リーグのスパイク賞も2度受賞した名プレイヤーであるとともに、分子整合栄養医学管理士として栄養療法のヘルスコーディネーターとして活動されています。また、法政大学非常勤講師も務められております。

そこで、今回「共育ブック・追記版」を発行するにあたり、上記の課題について投稿をお願いしましたところ、ご快諾いただき、A4・11ページ（別途資料あり）のジュニアプレイヤーの栄養に関する貴重な情報を寄せていただきました。紙面の都合上、ここには「前文」と「最後に」そして目次のみの掲載とさせていただきます。全寄稿文及び資料は、日本小学生バレーボール連盟HPにUPしておりますので、そちらからダウンロードするようにお願いします。

ジュニアアスリートの栄養管理

第一章 能力を引き出すスポーツ栄養学

①「身体の中の栄養状態は大丈夫？」という視点をもつ

栄養講習会でよく質問されるのが「どれくらい食べたらいいの?」「栄養のバランスは?」「補食は何を食べたらいいの?」という質問です。

たしかに食事管理は、アスリートのコンディショニングの土台となるものです。しかし「食事管理をしている」=「身体（体内）の栄養管理ができている」というわけではありません。

実際に私はバレーボールの元選手ですが、管理栄養士（当時はスポーツ栄養士の資格がなかったため管理栄養士がメニューを考案）が考えた食事を残さず食べていましたが、栄養状態が悪く重度の鉄欠乏性貧血（たんぱく質と鉄が不足することが原因で起こる疾患）になりました。

栄養が欠乏する理由は、一人ひとり、身長や体重、筋肉量や運動量が違うだけでなく、消化吸収能力や、体内での栄養の利用効率も違うからです。これが個体差であり、個体差があるからこそ必要な栄養素量は一人ひとり違うということを私たちは理解しなければいけません。個体差がある限り、教科書通りの「栄養フルコース型の食事」を摂っていたとしても、ある選手にとっては栄養が足りず、コンディションが悪くなることもあるということです。

アスリートは、十分に食べていたとしても、体内の栄養状態は一人ひとり違うということなのです。特にジュニアアスリートは、さらに成長で栄養が必要になるため、体内の栄養状態は欠乏しやすいという現状に陥りやすいです。

残念なのは、現在のスポーツ界では、栄養欠乏で起こっている症状にも関わらず「スタミナがない選手だ」「ケガが多い選手だ」「やる気、集中力がない選手だ」と誤った認識をされ、正しい対策が行われていないことです。

アスリートは最高のコンディションを作るために、体内の栄養状態も最高を目指す必要があります。

繰り返しますが、体内の栄養管理をする上で、食事管理はその土台となりますが、それで十分というわけではなく、食事管理をしたうえで、子供たちの顔色や表情、スタミナや練習後の様子、ケガの治り方や治る早さなどから「身体の中の栄養状態は大丈夫?」という視点を持ち観察することが大切です。

子供たちから必ずヒントが見えてきます。（以降 中略）

第一章 能力を引き出すスポーツ栄養学

- ①「身体の中の栄養状態は大丈夫？」という視点をもつ
- ②オスグッド・シュラッター病（オスグット病）の背景に栄養欠乏あり
- ③身体の機能は体内の栄養状態で違う
- ④栄養素の必要量の考え方

第二章 ジュニアアスリートの食事

- ①「カロリー」と「栄養素」はどちらが大事？
- ②カロリーはどれくらい必要なの？
- ③栄養バランスがとれた食事とは？

第三章 育ち盛りのトラブル対策

- ① 思うように身長が伸びない
- ② 成長期に気をつけたい鉄欠乏
 - 1) 鉄欠乏は見過ごされている
 - 2) 鉄欠乏の症状は倒れるだけではない
 - 3) 鉄剤の限界と鉄の静脈注射の危険性
 - 4) 原因に合わせた栄養対策をしよう

最後に

心と身体が健やかに成長をするには、その人にとって必要な栄養が足りているかどうかのカギを握ります。

私は分子整合栄養医学を学び実践しているドクターの下、分子整合栄養アドバイザー®として多くのジュニアアスリートの栄養アドバイスのお手伝いをしてきました。

これまで選手のコンディションは選手自身の感覚で評価されてきましたが、今では、血液検査データから栄養の過不足を判断することで、初めてコンディションを可視化することができるようになりました。これを実現しているのが「分子整合スポーツ栄養学」という「分子整合栄養医学」という学問をベースにした栄養学です。分子整合スポーツ栄養学の視点があれば、自分がどんな食事（栄養素）をどれくらい摂ったらよいか具体的にがわかるのです。

ここでは、これまで常識とされている一般的なジュニアアスリートの栄養学とは違った、分子整合スポーツ栄養学の視点から、ジュニアアスリートの栄養管理について書かせていただきました。皆様の食事管理がより良いものになり、子供たちの健やかな成長とコンディションに違いがあることを願っています。



3 怒ってはいけない大会を通して

日本スポーツ少年団 本部長 益子直美

『怒られる』『叱られる』こと

- ① ルール、マナーを守れなかった時
- ② 取り組む態度、姿勢が悪かった時
- ③ いじめ、悪口を言った時
- ④ 命に関わる事故になりそうな時

『危機介入』『押止力』

共通
認識

試合中のミス＝チャレンジ！

普段から怒る指導⚡の監督さんは

勝つために怒り必要 ⚡

怒りを手放す = 勝利を手放す



今日は怒らないぞ！
勝敗は気にしなくていいから
楽しんでやれ！

スポーツは勝敗があるから
面白い！ 成長する！

『必ず勝利を目指してください！』



大会のテーマ

罵声や高圧的な指導に頼らない！

『怒り』を使わなくても
勝利 育成
両方手に入る指導方法

監督もチャレンジ！



監督の感想

名誉

実績

立場・地位

指導

価値観



怒られないように
ミスないように
言われた通りに



技

ゆら

体

ゆら

心育ってない

ブルブル

自己肯定感低い
考える力なしの指示待ち選手

怒る指導 = 考えない = チャレンジなし

怒る、高圧的な指導で失う**5**つのもの

自主性・主体性

自信

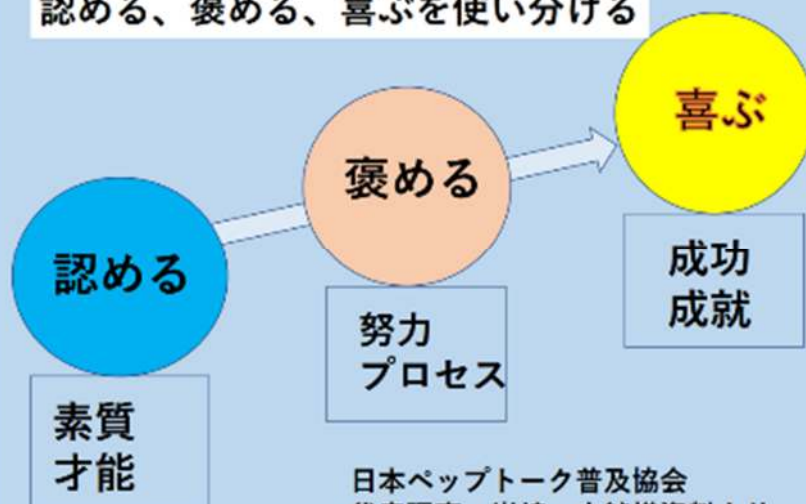
チャレンジ精神

学ぶきっかけ

笑顔

スポーツは人生を豊かに、人間力を育てる
素晴らしいツール

認める、褒める、喜ぶを使い分ける



日本ベップトーク普及協会
代表理事 岩崎 由純様資料より

褒める言葉の『さしすせそ！』

さ

さすが！

最高！

し

信じられない！

知らなかった！

素人とは思えない！

す

素晴らしい！すごい！

素敵！好き！

せ

センスいい！

世界一だね！成長した！

そ

そうきたか！

それいいね！相当イイ！

その調子！それでいい！

4 部員増になったチームの特徴とチーム運営

共育ブックについての各都道府県連盟の声から

◆令和元年

【部員増を成し得ているチームの特徴】

- ・児童数の多い地域。
- ・練習量と結果がうまく結びついているチーム。
- ・選手の自主性を重視し、総じて楽しい雰囲気が感じられるチーム。
- ・指導者のアンガーマネジメントがなされているチーム。
- ・指導者が人間力向上を意識して子どもや保護者に接し、指導者も選手も保護者もマナーの良いチーム。
- ・バレーボールの指導力の高いチーム。 等
- ・保護者の負担の少ないチーム。

どのチームも子ども同士・親同士の声かけが入部には一番効果的になっているようです。ソフトバレーボール大会も効果的です。各チームの日々の練習の重要性や組織としてのまとまりの大切さもここからもうかがえます。今入部している子どもたちを大事にする、今応援して下さっている保護者や関係者の皆さんを大事にする、そこからの口コミで広がっていく、これがチーム作り、組織拡大で重要だと思います。優秀な選手の引き抜きと推察される行為や勝利を目指してのチームの離合集散は、結果的に、チーム数減、メンバー数減のつながっていることが多いです。指導者のおごり、傲慢さは一番の黄信号、赤信号です。

◆令和5年

【部員増を成し得ているチームの特徴】

- ・都市型チーム（子どもが多い 指導者が多い 新しい指導方法の情報の伝達が早い）
- ・指導者の世代交代（明るい雰囲気 鍛錬の場からスポーツを楽しむ空間演出へ）
- ・選手主体・全員参加型の指導法に変更（プレイヤーズセンタード の実践）
- ・選手の心のケアや理解に努める指導者のいるチーム
（子どもの心をつかむ 保護者の心の奥にある想いをつかむ）
- ・目標が明確なチーム
（何のために誰のためにバレーボールを教えているかを明示）

比べてみると、ちがいが見えてきます。

大きな違いは、スポーツに対し、選手や保護者が求めている願いです。

5年過ぎても、バレーボールを通した人間力向上を期待していることには変わりはありませんが、人間力の捉え方に下記の項目などで、少しずつ変化が現れているように感じます。

根性・礼儀・マナー ➡ スポーツを楽しむ心・チャレンジ・愛

★時代の変化のスピードは増すばかりです！

(1) バレーボールアンケート(子どもたちからの声)

令和5年度 子どもたちの声 アンケート

◎子どもたちへ。

もっと楽しく、大好きなバレーを続けるために、みんなの思いをおしえてください。

日本小学生バレーボール連盟 コンプライアンス委員会

今のチームに入部した理由を教えてください
(当てはまるものすべて)

- ☐ バレーボールが好きだから
- ☐ ソフトバレーボール大会に出て、面白かったから
- ☐ 指導者がいい人だから
- ☐ 友達にさそわれたから
- ☐ おうちの人に言われたから
- ☐ まわりの大人にさそわれたから
- ☐ スポーツを何かしたかったから(体を動かすのが好きだから)
- ☐ 家族(お母さん・お兄ちゃん・お姉ちゃんなど)がやっていたから
- ☐ テレビ・漫画(ハイキューなど)を見てやりたと思ったから
- ☐ 入らなければならない雰囲気があったから

あなたがバレーボールを続けている理由は何ですか？
(当てはまるもの2つ)

- ☐ 友達がいるから
- ☐ (都道府県)大会に出場するのが夢だから
- ☐ 全国大会に出たい(優勝したい)から
- ☐ バレーボールが好きだから
- ☐ 有名な選手(石川優希選手など)になりたいから
- ☐ 交流試合や遠征が楽しみだから
- ☐ バレーボールが楽しいから
- ☐ やめられる雰囲気ではないから
- ☐ その他:

バレーボール活動で楽しいことは何ですか？

（当てはまるもの3つ）

- ☐ 練習が楽しい
- ☐ 試合（大会）が楽しい
- ☐ 友達と会えるのが楽しい
- ☐ 友達といっしょに活動するのが楽しい
- ☐ 指導者が褒めてくれたり、喜んでくれたりするの楽しい
- ☐ おうちの人喜んでくれるのがうれしい（楽しい）
- ☐ 試合で勝つこと（勝った時）が楽しい
- ☐ 出来なかったことが、出来るようになった時が楽しい
- ☐ 体を動かすことが楽しい
- ☐ その他: _____

こんな指導者に教えてほしい。と思うことは何ですか？

（当てはまるもの3つ）

- ☐ おこらない・優しい・ほめてくれる
- ☐ 厳しく、しっかり教えてくれる
- ☐ 乱暴な態度や、えらそうな言い方をしない
- ☐ 身なりやふるまいがきちんとしている
- ☐ 話しが短くて、わかりやすい
- ☐ ユーモアがある（おもしろい）
- ☐ 自分たちに練習方法をまかせてくれる・意見を取り入れてくれる
- ☐ 指導力がある（言われたとおりにやるとうまく出来るようになる）
- ☐ その他: _____

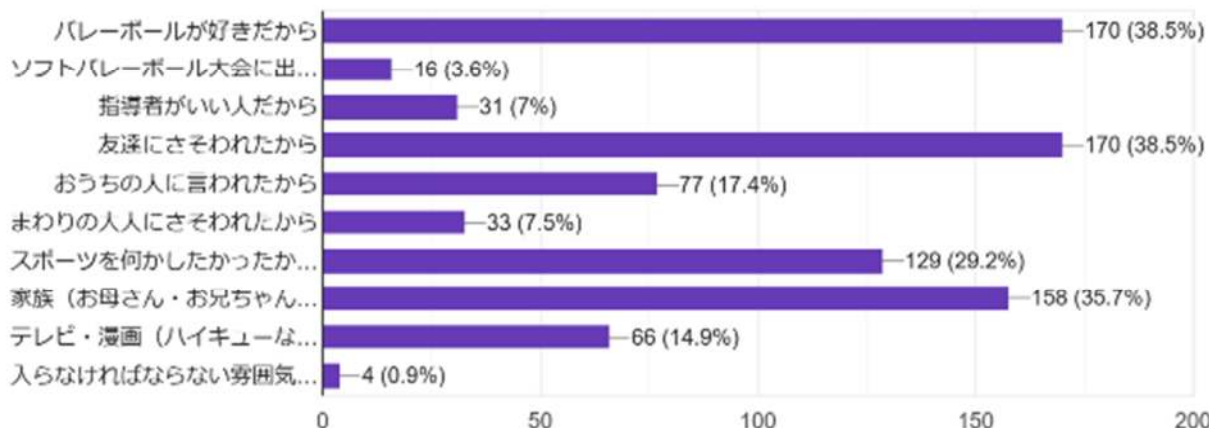
令和5年度 子供たちの声 アンケート 結果

日本小学生バレーボール連盟 コンプライアンス委員会

バレーボールに対する子どもたちの想いや教えてもらいたい指導者像などの傾向を知るために、47都道府県から2都道府県を抽出し、グーグルフォームを使って、下記の「令和5年度子供たちの声アンケート」を実施しました。そして、そこに寄せられた442件の回答状況とコンプライアンス委員会がそこから推察されることを分析して、掲載させていただきました。

今のチームに入部した理由を教えてください（当てはまるものすべて）

442 件の回答



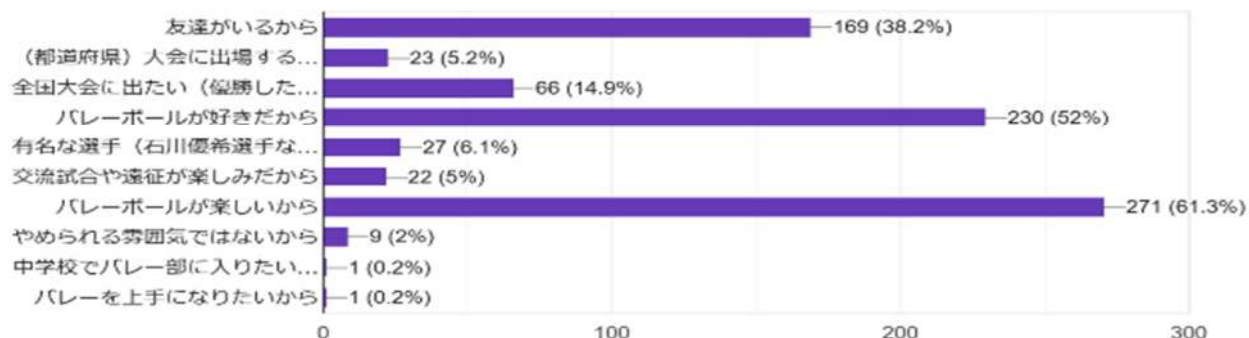
- ① 入部した理由は何ですかの問いについては、「バレーボールが好きだから（170）」、「友達に誘われたから（170）」が同数でトップ、次いで、「家族がやっていたから（158）」、「スポーツを何かしたかったから（129）」の順となった。

ここで、注目すべきは、「バレーボールが好きだから」という理由で自らが進んで入部しているということだ。

友達の誘いや、家族の誰かがやっていたからというきっかけの違いはあるにせよ、純粋にバレーボールが好きだという事実がそこにある。チーム（指導者）は、その気持ちを、より大きく育てる責務があることを忘れてはならない。

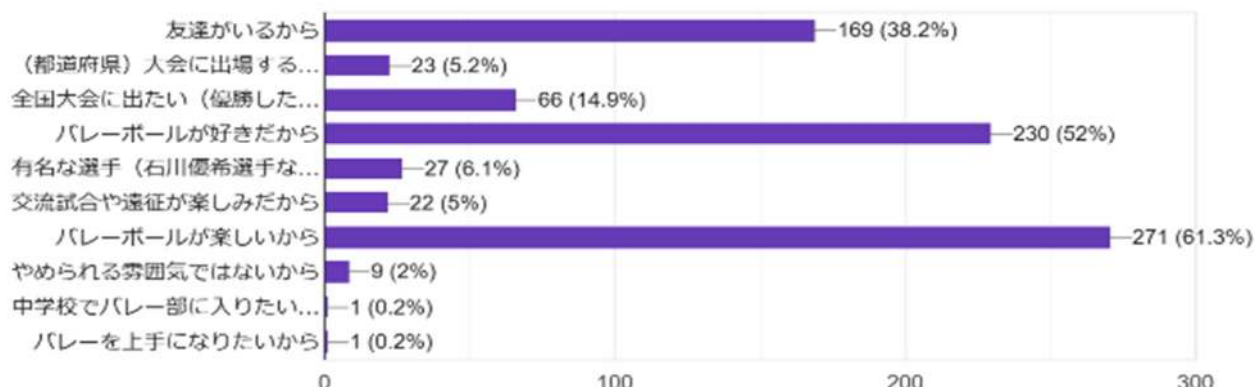
あなたがバレーボールを続けている理由は何ですか？（当てはまるもの2つ）

442 件の回答



あなたがバレーボールを続けている理由は何ですか？（当てはまるもの2つ）

442 件の回答



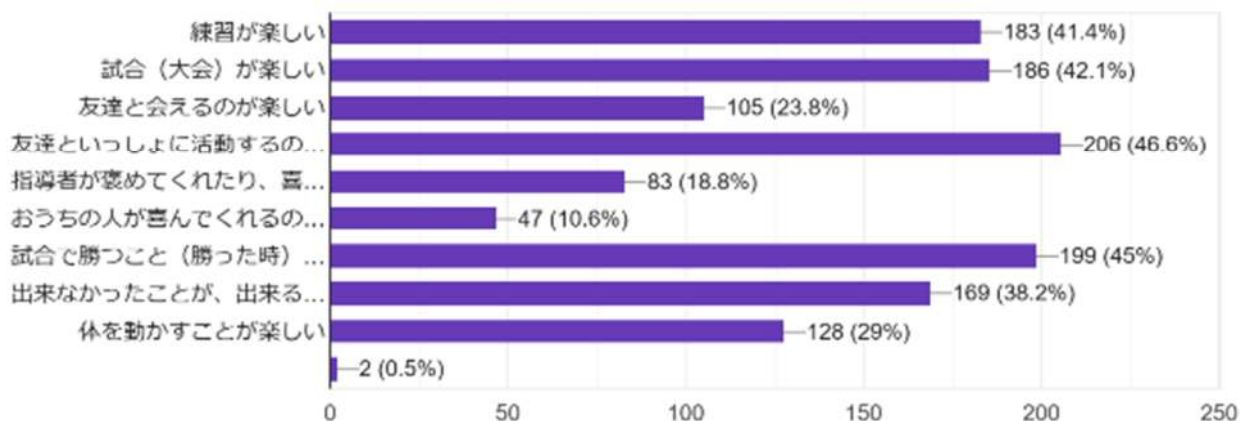
- ② 「バレーボールを続けている理由は何ですか」の問いについては、「バレーボールが楽しいから（271）」、「バレーボールが好きだから（230）」の2つで全体の61%を占めている。

大会に勝つことや全国大会に出ること、有名な選手になることは先にある目標の一つであって、バレーが楽しい・好きだと思えることが、何より重要であり、先に述べたとおり、その思いをより大きく育てるための環境を整える必要がある。

しかしながら、少数意見とはいえ「やめられる雰囲気ではない（9）」という回答があった。チーム内の環境に何らかの問題が潜んでいて、指導者が気づいていない場合もあるということも、事実として受け止めておいてほしい。

バレーボール活動で楽しいことは何ですか？（当てはまるもの3つ）

442 件の回答



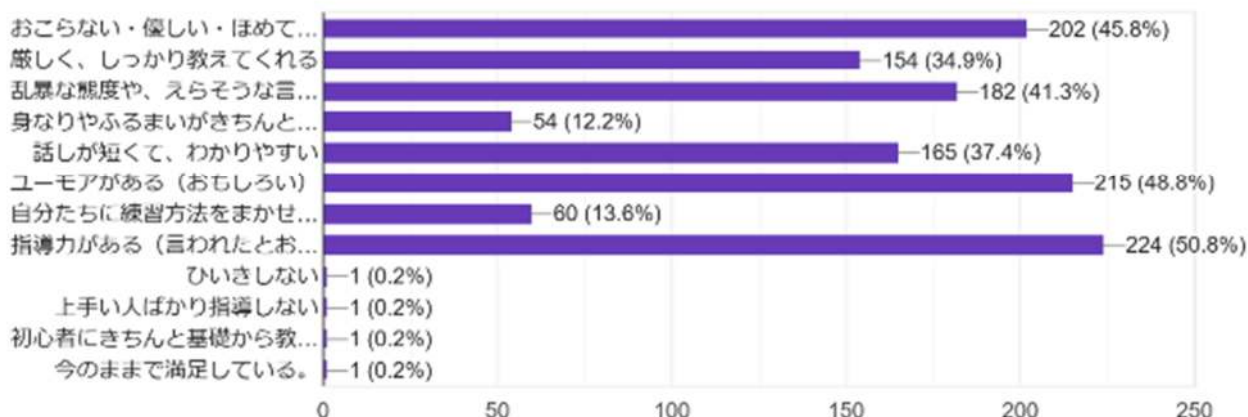
- ③ 「バレーボール活動で楽しいことは何ですか」の問いについては、「友達といっしょに活動する（206）」がトップとなったが、試合（大会）や練習、試合に勝つといった実際のプレーに起因するものが、568件（43%）と約4割以上を占めている。

勝つことだけに執着する勝利至上主義的な指導は、肯定されない時代だが、スポーツだからこそ得られる重要な要素が勝敗の中にはある。

普通に考えれば、やらされている感の中に楽しさは見えてはこないもので、自らがすすんで求め、努力して得た結果を「楽しい」と感じているのではないだろうか。

こんな指導者に教えてほしい。と思うことは何ですか？（当てはまるもの3つ）

441 件の回答



④ こんな指導者に教えてほしい。と思うことは何ですかの問いについては、「指導力がある（言われたとおりにやるとうまく出来るようになる）（224）」がトップに。次いで「ユーモアがある（おもしろい）（215）」、「おこらない・優しい・ほめてくれる（202）」という結果となった。「話しが短くて、わかりやすい（165）」の回答についても、最多回答となった「指導力」に含まれている部分であると言える。

一方で、「厳しく、しっかり教えてくれる（154）」という意見も多くある。これは単に優しいだけではなく、メリハリのある指導を求めている結果ではないだろうか。当然のことながら、厳しい！イコール「怒る」ではなく、厳しい目（やるときはやる・安全を確保する・俯瞰的に見る）がある。すなわち指導力（魅力）が求められているということを物語っている。

【総括】

今回のアンケート結果から、子供たちがバレーボールを楽しみ、友達と大好きなバレーボールを続けていきたいという思いが伝わるのと同時に、指導力（厳しさの中に優しさを兼ね備えた）があり、同じ目線（差別なく）で接してくれる指導者を求めていることを感じた。

勝つことに執着し、理不尽な要求（ハラスメント）や、説得力に欠ける（根拠なき）指導は決して長続きはしないし、そんな指導者は、もはや必要とされていないということではないだろうか。

バレーボールが大好きだという子供たちの声（夢）を、より大きく育てることが、指導者として最も重要な責務であり、指導に携わる一人一人が真摯に向き合うことで、子供たちの声に応えることに繋がると確信している。

全ては、「ど真ん中に子どもがいる」主役は子どもたちだから・・・。

(2) メンバー増を成し得ているチームの取り組み

A JVC

(R3.春)～

- 昨年度の春をむかえる前は・・・
- 子ども 7 名 (内 1 名はサッカー部キャプテン)
- 指導者 (監督 1 名、コーチ 1 名、マネージャー 1 名)



A JVC

(R4)～

- 6 年生 (現在中 1) が 7 名卒業しましたが・・・
- 5 年生 10 名 (女子 7、男子 3)
- 4 年生 4 名 (女子 2、男子 2)
- 3 年生 8 名 (女子 2、男子 6)
- 2 年生 4 名 (女子 2、男子 2)
- 1 年生 1 名 (女子 1)

[現在 27 名]
女子 14 名
男子 13 名



広報活動 ～入学式での紹介～



実際には、チラシや入学式を見て入部を考えたという方は少なく…
ほとんどが、バレーに興味を持った子どもの保護者さんが
JVCを見つけて連絡をくださることが多いです → 体験 → 入部

バレーボール体験教室

バレーをやってみたい
と思ってくれた
その気持ちと勇気を
大切に・・・

来てくれて
ありがとう



大切にしていること① ～居場所づくり～

安心
安全

子どもたちが安心して、仲間と一緒に
バレーボールを楽しむことができる居場所づくり



子どもに感謝
保護者に感謝
そしてバレーボールに感謝

※これが前面に出ている
チームです。

大切にしていること② ～良さ・成長に目を向ける～

子どもの「良さ」や「小さな成長」に
目を向けること

- その場で本人に声がけ
- 子どもたちに紹介
- 保護者に紹介



注意ではなく、
子どもが一生懸命頑張っている姿
やいいところを広めていく



大切にしていること③ ～保護者との連携～

大切なお子さんを預けてくださっていることに感謝



子どもの成長を
一緒に楽しむ♡

変わってきたところ・・・

- 部員数が増えたこと
- 楽しそうな雰囲気、一生懸命な姿勢
- 子どもたちが声や行動で表現できるようになったこと
- そして、その表現を子どもも保護者も楽しむ

まだまだこれから・・・

- バレーボールの指導力の向上
- 指導者同士の情報共有
- ながく続けていくこと



A JVC

R6.1月末 現在の部員数

男子 26名

女子 21名

チームスタッフ 12名

計 59名のチームとして活動中

今も、新たな体験者が見学に来ている！

(3) 子どもたちと作るポスター

【子どもたちと一緒につくろう バレーボールポスター】

〇〇小学生バレーボール連盟

各チーム代表者及び各役員 様

〇〇小学生バレーボール連盟

新版 ●●小連 バレーボールポスター 図案 募集について

平素は、〇〇小学生バレーボール連盟の活動、運営に対しましてのご理解、ご協力心よりご感謝申し上げます。早いもので9月。これから冬への序章がスタートします。

さて、県小連コンプライアンス委員会では、2月総会においてご提案しましたように、子どもたちにバレーボールを楽しみ、より好きになってもらうために、新版バレーボールポスターを作成することにしました。

下記の記載コピーは、コンプライアンス委員会が提案し、〇〇小連常務理事会にて決定しました。中心となる絵につきましては、今回は子どもたちから募集し、常務理事会にて、選考決定していくことになりました。そして、選考された図案を挿入したポスターは〇〇小連主催の各大会において、来場者にご覧いただける場所に掲示していく予定です。

各チーム代表者及び各役員、関係者の皆様方には、下記の要綱を参照の上、子どもたちに周知し、協力いただけるようにお声がけをよろしくお願いいたします。元気あふれる明るい絵を期待しています。

新版〇〇小連バレーボールポスター作成要綱

記載コピー 「つなごう ボール！ 夢に向かって！」

「かっこよくジャンプ 楽しくレシーブ

そして美しいバレーボール！」

「明日にアタック なかまとチャレンジ」

「自分・仲間・ふるさと・バレーボール みんな大好き」

1 記載コピーにあった図案

(どのコピーの図案になるかについては、常務理事会が判断します)

2 バレーボール ということがわかる図案

3 オリジナル 図案

4 官製はがき以上 A4用紙以下の用紙に描かれた図案

5 色鉛筆で色付けされた図案

※採用された方には、〇〇小学生バレーボール連盟から感謝状と記念品を送らせていただきます。

※応募先

※締め切り 〇月〇日(月)

【ポスター例】

勝敗を超えた感動を！

笑顔 1 番

目指そう！ 品格ある指導者

自分・仲間・ふるさと まるごと大好き 高知のバレーボールっ子

試合が楽しい。練習も楽しい。バレーボール最高！

つかもう 心を！ かなえよう 夢を！

かっこよくジャンプ 美しくレシーブ そして楽しくバレーボール！

明日にアタック 夢にチャレンジ

チームワークで Get the victory

仲間の声が力です！

つないだボールに夢をたくそう！

高知県小連は、学び続ける子どもたち、大人たちを応援します。～k1～

えがお 1番



〇〇県小学生バレーボール連盟

高知県小連は、学び続ける子どもたち、大人たちを応援します。～k2～

勝敗を超えた
感動を！



〇〇県小学生バレーボール連盟

高知県小連は、学び続ける子どもたち、大人たちを応援します。～k3～

自分・仲間・ふるさと
まるごと大好き
〇〇のバレーボールっ子



〇〇県小学生バレーボール連盟

高知県小連は、学び続ける子どもたち、大人たちを応援します。～k4～

目指そう！
品格ある指導者



〇〇県小学生バレーボール連盟

高知県小連は、学び続ける子どもたち、大人たちを応援します。～k5～

試合が楽しい。
練習も楽しい。
バレーボール最高！



〇〇県小学生バレーボール連盟

5 コンプライアンス規定違反から学ぶ

(1) 悪質な事例

悪質な事例(1)

令和2年度 東北チーム

・監督によるマッサージなどのセクハラ、わいせつ行為
・ストーカー的言動、不当な金品の要求

永久追放

悪質な事例(2)

令和2年度 九州チーム

・監督、コーチによる体罰と暴言、暴行、人権侵害行為
・飲酒によるセクハラ
・保護者会長への暴言
・監督の行き過ぎた指導、パワハラ

監督・2年間活動停止
チーム解散

悪質な事例(3)

令和3年度 東北チーム

・首の後ろとこめかみを掴んで壁に向かって放り投げる
体罰があった。
・プレイがうまくいかない時は「出ていけ。」と言う
・チームは混合、「男子には厳しくする。」

監督・指導停止1年間
過去2年間にも不祥事

悪質な事例(4)

令和3年度 九州チーム

・体罰・不適切な指導
・返事が小さかった選手を、ほぼ半日体育館のステージに
立たせて、練習に参加させなかった。この指導に、多くの
保護者が批判した。このような体罰に直結する行き過ぎ
た指導は、日常茶飯事らしいとの証言もある

監督・指導停止6か月

悪質な事例(5)

令和3年度 九州チーム

児童ポルノ禁止法違反・建造物侵入容疑
現行犯逮捕
銭湯に侵入後、男子中学生を盗撮

監督・永久追放

悪質な事例(6)

選手が退部して終える

令和3年度 関東チーム

暴言・不適切な指導
・選手に対する好き嫌いが激しく、「てめえ。帰れ。辞めち
まえ。」との暴言が酷い。「休んだらコートに入れない。」と
脅迫する。
・保護者から意見を言うと、選手が標的になるから、何も
言えない。
・選手はびくびくしながら練習。

悪質な事例(7)

監督・2年間活動停止

令和4年度 近畿チーム

暴言と体罰・暴力、不適切な指導
2020年の全国大会に出場して優勝するという目標を
立て、厳しい練習が行われる中、部員や保護者に対する
数々の暴言や、選手に至近距離からボールを投げつけたり
打ったりする体罰に、全国大会優勝のためと我慢して
きた。全国大会が中止となり、指導者と部員、保護者との
関係がくずれ、練習も下級生中心になっていた。6年生の
練習を再開するきっかけとして、監督に土下座すること
になった。

悪質な事例(8)

令和4年度 近畿チーム

小学校5年生である選手の頭をたたいた。練習試合にお
いて、監督は、選手の頭の左上の部分、右手(平手)で1
回たたいた。たたいた理由は不明だが、選手が試合中に
ミスをしたからと思われる。また、監督は、日ごろから指
導中に「アホ」、「カス」、「ボケ」、「殺したるか」などの発言
をする。

監督・指導停止6か月

悪質な事例(9)

令和3年度 中部地方チーム

暴言および不適切な指導

- ・人格を否定するような暴言を吐いた。
- ・試合中及び試合後に精神的に追い込むような言動。
- ・一部の選手に対して、他チームへ移籍の勧誘を行う。
- ・練習中、選手にけがの恐れのある強打を繰り返した。

監督・・・一定期間 活動停止
研修の義務付け

悪質な事例(10)

令和4年度 九州チーム

- ・当該監督による被害児童に対する不適切な指導の事実が発覚。
- ・キャプテンである被害児童への度重なる叱責。その結果、心的外傷後ストレス障害(PTSD)と診断される。《完治6か月》

監督・・・1年間活動停止
小連役員解任

悪質な事例(11)

令和5年度 中部チーム

・当該監督による大々的な暴言

日常的に「おまえら」「ばか(ばかたれ)」「あほ」「お前らにはもう(チャンスは)ない」「お前らには無理」「お前らのせいで負けた」等

- ・ペットボトルを選手に投げつける
- ・保護者への脅迫

監督・・・2か月間活動停止
文書による厳重注意

悪質な事例(12)

令和5年度 東北チーム

・監督の暴言、暴力、体罰

チームが壊滅状態であり、父母会で話し合い、子ども達を皆やめさせることにした。

監督・・・反省文の提出
その後活動停止6カ月
チームの解散

悪質な事例(13)

令和5年度 近畿チーム

・暴言および不適切な指導

練習試合の際に凄まじい暴言や、ボールを顔にぶつける等の行為があった。

半年間、メンバーとバレーの指導には関わらない(バレーの指導、監督活動停止)

悪質な事例(14)

令和5年度 近畿チーム

・暴言および不適切な指導

頭が悪いなど選手がバレーを辞めたいと思うほどの退部者が出て監督に反省がない。

暴言の継続性を認定
厳重注意

変わらない指導者(教え込み型の指導)

あなたのために・・・

勝利至上主義

自分のための・・・

ボランティアへの甘え
代わりがないという甘え
独善主義

日常生活のストレスから

自分のための・・・

選手を性的対象として・・・
行き過ぎた出会いを求める
指導者・保護者

新型コロナウイルス感染症拡大
イライラ感+コミュニケーション

抑止力不足
組織力不足

コンプライアンス規定違反事例への対応

「共育ブック」P7 参照

- ①チーム関係者(保護者会長や指導者等)に相談
解決に至らない又は問題がさらにこじれた場合
- ②各都道府県小学生バレーボール連盟各支部に相談
または各都道府県小学生バレーボール連盟に相談
- ③日本小学生バレーボール連盟
日本小学生バレーボール連盟コンプライアンス委員会
または日本バレーボール協会
に、連絡・相談!

(2) 報告書から見てくるもの

報告書から見てくるもの

トラブルの内容



- ① 体罰 暴言 不適切な指導
- ② 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に対する無関心さが引き起こすトラブル
- ③ 初動対応の遅れ・不的確な対応

報告書から見てくるもの

トラブル解決の先には・・・



選手やチームを育てる

人材を育てる



バレーボール人口を増やす

組織を育てる

報告書から見てくるもの

トラブルの解決の糸口



事案発生時の対応について三原則

- I 訴えの全てに対応
- II 1番 目撃者
2番 被害者
3番 当事者
- III 複数対応 組織対応

不祥事対応が、人材の育成につながる根拠

我々は、不祥事を防ぐために努力している。しかし、それでも不祥事が発生してしまうことがある。

往々にして各連盟は不祥事が発生すると、「また余計な仕事を増やしてくれた。煩わしい。」と感じる。これは人情である。しかしながら、この解決のプロセスを介して、指導者の指導方法を正し、それを取り巻く保護者会の価値観を変えることは、犠牲になっている子供達を救うだけでなく、結果的にバレーボールに関わる子供達を増やすことに繋がる。つまり、不祥事解決の先にあるのは、人材の育成・チームの育成である。

こう考えれば、余計な仕事も、バレーボール競技人口を増やすし、底辺拡大につながる。これは、本連盟がめざす根幹である。

1 トラブル解決の糸口

【1】 匿名メールに対しての「解決方法」

例1 発信内容を各支部(各地区)に知らせる。

例2 発信内容を全チームに知らせる。

各支部(各地区)・各チームから、何か解決の糸口を得られることがあるかもしれない。何も得られなくても、再発防止にはなる。

日小連コンプライアンス委員会においては、通報者からの訴えが、匿名であるなしに関わらず、できる限りの対応をする、または都道府県小連のコンプライアンス委員会に対応を促すように繰り返しお願いしています。しかし未だに、役員の方々の中にも、匿名であるから様子を見て対応してよいだろうとか、対応の必要はない、というお考えの方がおいでます。それによって事態をさらに悪化させてしまった例は、多々あります。つい最近にもそのような事例が見られ、コンプライアンス委員会一同、胸を痛めました。

一つの訴えの中に込められている情報やその奥にある悲痛な思いをしっかりと受け止め、対応していくことは、通報者のみならず、通報された方も守ることにつながります。放置が一番よくありません。早期発見・早期対応に勝るものではありません。

仲間を処分するのでありません。仲間を救うために、調べて、よりよい方向に導くのです。それが本当の仲間なのではないでしょうか。

【2】 実名メールに対しての「解決方法」

実名で、訴えられた方には、親子ともに窮地に追い込まれ、苦しんでおられる方が多いというのは確実です。一刻も早い対応が必要です。また、通報者の立場に立って、その方の不利益にならないようにしなければなりません。言葉一つ一つ、しぐさや表情にも気を配りながら、お互いが納得できる解決策を見つけていきましょう。秘密は厳守。これはいうまでもありません。

実名の方は 特に1 早急に対応してほしい

2 許しがたい仕打ちや行為を受けて、相手を憎み、恨んでいる

3 バレーボールが好きだからこそ、組織や指導者の矛盾や不備が許しがたい ような方が多いと考えて、対応しましょう。

【3】 慎重に進めなければならない場合

ハラスメント行為の中でも、特にセクシャルハラスメントについての対応には、十分注意しましょう。事実確認の段階から、細心の注意が必要です。できれば信頼できる第3者に入ってもらるか、直接警察にお願いする方が良いと思います。

セクシャルハラスメントは、双方の今後の人生に大きくかわる事案となる場合が多くあります。裁判では「疑わしいことは罰せず」が基本ですが、私たちコンプライアンス委員会の立場は、通報者の心のケアを優先し、疑わしいことにも、何らかの改善策を提案していくことを基本にしています。各都道府県小連のコンプライアンス委員会の方々にも、同じように対応していただきたいです。関係者は、複数で客観的な目（凝視・俯瞰・時流）等をしっかりと持った対応に心がけましょう。

勝利至上主義からくる
指導技術の未熟さ
ケースAB

- ・体罰・暴言・不適切な指導
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する無関心
- ・監督・ベンチスタッフと選手・保護者間、保護者間同士の意思の疎通が希薄

誤った指導理念からくる
指導技術の未熟さ
ケースCDE

- ・体罰・暴言・不適切な指導
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する無関心
- ・監督・ベンチスタッフと選手・保護者間、保護者間同士の意思の疎通が希薄

登録チームと
統括都道府県小連との
問題ある関係

- ・組織の癒着・付度
- ・連盟の機能不全

ケース	第一報	主訴内容	通告内容	対応過程	処分内容等
A	バレーボール協会・問い合わせフォームへの書込	・監督の暴言と体罰 ・暴力、不適切な指導	・暴言の体罰・暴力、不適切な指導 ・2020年の全国大会に出場して優勝するという目標を立て、厳しい練習が行われる中、部員・保護者は、数々の暴言や、至近距離からボールを投げつけたり打ったりする体罰に、全国大会優勝のためと我慢してきた。全国大会が中止となり、指導者と部員、保護者との関係がくずれ、練習も下級生中心になっていた。その後6年生の練習を再開するきっかけとして、監督に土下座することになった。	・ネットニュースに流れる ・通報者に聞取り ・その後当該監督、保護者会代表に聞き取り	・監督活動停止24か月 ・Aコーチ活動停止12か月 Bコーチ口頭注意 保護者会口頭注意 ・監督自ら深く反省し、2022年6月4日よりチームの練習に参加することはやめている。また、何よりも今回の騒動で関係する部員たちを傷つけないよう心配し、願っている。 当該コーチは当該監督に改心させようと努力してきたが、どうしても納得いかず、2021年3月をもってコーチを辞めている。
	【総合所見等】 今回、A県小学生バレーボール連盟の対応に、関係者が納得しなかった。そのために、日本小学生バレーボール連盟コンプライアンス委員会委員長が当該連盟に指導・助言を行った。A県小連は再発防止策として、「登録している全チームの指導者、保護者代表を集めてコンプライアンス研修会を開催し、啓発活動を推進していく。」当該チームは、今夏の「日本小学生バレーボール大会全国大会」に出場。ところが左記の処分を受けたために、A県小連役員が出場資格のある指導者の肩代わりを行い、出場を救済した。当該小連は、この救済措置は処分とは別問題と判断。				
B	日本小学生バレーボール連盟HP「体罰暴力ハラスメント通報窓口」に連絡	・全国大会参加に伴う移動方法に係る意見の相違が原因と考えられる不信感の醸成	・コミュニケーション不足によるチーム内トラブル ・全国大会への移動手段に係る当該監督と通報者との不十分な意思の疎通が原因。 ・その件で通報者が当該監督に意見した後が全国大会のメンバーから方的にはずされた。	・当該監督・保護者会長・同副会長から小連会長、理事長が聞き取りを行う。 ※監督から通報者への謝罪 ※通報者から監督・チーム関係者への謝罪	・チーム及び監督への指導、双方の謝罪により監督と通報者、監督と保護者会の関係が改善されたことが窺える。また当該選手も復権した。さらにチームの結束が期待できると考えている。
	【総合所見等】 C小学生バレーボール連盟は 当該チームに以下の対応をした。 ・保護者一人一人の申し出を聴き、そこにいる選手が悲しむことがないように、また選手と保護者を一律にすることなく、選手を中心として考えていくことを指導した。 現在、当該チームは練習時間もやや削減され、チーム内も良好な状態が続いているという。まさに「雨降って地固まる」をD小連が支援した典型である。				

ケース	第一報	主訴内容	通告内容	対応過程	処分内容等
C	日本小学生バレーボール連盟のお問い合わせフォームへの書込	・チーム内のいじめを放置	・不適切な指導 7月に息子(小3)がBCCチームに入部した。1か月後、2名の子どもたちから罵声を浴びせられたり、いじめられたりするようになった。ところが、2名の子どもたちにいじめよう指示を出していた他の選手がいたことが判明した。これらのことをコーチに相談したが、きちんと対応してくれなかった。そのため、退部することになった。	・監督、及びコーチの娘やそのチームの関係者からも話を聞き、事実確認を行う。 ・口頭による指導、指導者研修会に参加を指示 ・訴えた母親と息子は在日韓国人であり、差別的な扱いをされていると言っていた。「監督やコーチは低学年の日本人選手をかわいがり、息子には冷たかった。」 ・理事長が練習会場に行き、監督・代表保護者等と面談。被害者選手の母親は、うちの子は被害者と言っていたが、かなりやり返していた、ということである。監督たちはそのたびに注意して止めさせていたという。 ・母親と電話にて話をする。「息子はバスケットボールチームに入り楽しく活動している。」「これからは楽しく活動をしている息子さんを応援してください。Eチームの指導者には引き続き指導をしていきます。」ということで話は終わった。	
【総合所見等】 保護者が日本人ではない場合、意思の疎通が困難であることを、指導に当たる我々は常に配慮することが極めて重要である。また、人生観や世界観が我々日本人とは異なることも、文献等を利用して学ぶことも肝要である。今回の件は、E県小学生バレーボール連盟が介入した時には、当該監督と当該保護者との意思の疎通、E県小連と当該保護者との対話は既に成立していなかった。初期対応の遅れが、問題を複雑にしたと言われても致し方ない。					

ハインリッヒの法則	「ハインリッヒの法則」とは、労働災害の分野でよく知られている、事故の発生についての経験則。1件の重大事故の背後には、重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、さらにその背後には事故寸前だった300件の異常、いわゆるヒヤリハット(ヒヤリとしたリハット)としたりする危険な状態が隠れているというもの。「1:29:300の法則」とも呼ばれます。
-----------	---

ケース	第一報	主訴内容	通告内容	対応過程	処分内容等
D	聞取者-弁護士・菊池幸夫	・暴言・体罰	・暴言・不適切な指導 ・怒鳴る・恫喝する・選手を精神的に追い込む・背中を強く推す →ストレス性胃炎になる選手もいる。近親者や保護者会の諫言や制止を無視。 このような行き過ぎた指導は長期にわたる。	保護者との事実確認 ・選手のストレス性胃炎と暴言との因果関係は医学的に証明できない。 当該監督及びコーチとの事実確認 ・怒鳴るなどの厳しい指導や行き過ぎた指導は全面的に容認するが、恫喝等は否認 ・自らの行為については全面的に反省	・口頭による嚴重注意
【総合所見等】 長年にわたり、チームの子どもたちにバレーボールを指導し、その地域に大いに貢献している指導者だからこそ、周辺が暴言や行き過ぎた指導に関して、改善を求める指導・助言が伝えにくい。しかしながらチームを統括する我々としてはE県小学生バレーボール連盟のように諫言しなければならない。					
E	日本小学生バレーボール連盟・工藤会長へ文書を郵送(匿名)	・チームの監督によるパワーハラスメント ・当該監督が所属する連盟における役職解任 ・当該監督の指導資格剥奪	・重なる不適切な指導及び暴言	再調査の内容を報告し、再度該当者に聞き取りを行う。 (zoom)適切な指導の事実が発覚。キャプテンである被害児童への度重なる叱責。その結果、心的外傷後ストレス障害(PTSD)と診断される。(完治6か月)	・小連役員解任 ・指導者活動一年間停止 ・指導者講習会再受講・被害児童の保護者に謝罪後、指導者を辞任。
【総合所見等】 O県小学生バレーボール連盟は、再発防止策として、以下に取り組む ・審判講習会における再発防止についての講話実施 ・県内全チームへのパワーハラスメント防止に関する文書配付。 ・当該監督は処分が下された直後に指導者を降した。日小連としては、指導者が改心し、指導を続ける方策も考えていきたい。					

ケース	第一報	主訴内容	通告内容	対応過程	処分内容等
F	日本小学生バレーボール連盟HP「体罰暴力ハラスメント通報窓口」に通報(匿名)	・処分を受けたチーム監督に対する処分した側の不当な対応	・不当な対応	・支部長より理事長へメールで県小連役員(事務局主事)変更の依頼 ・理事長とAさん及びBさんが面談 ・理事長と支部長が面談 ・支部役員会 ・理事長が全日本小学生大会D支部大会を視察	・チーム解散及び役員交替の経緯と日頃の支部運営への不満が、複雑に絡み合って発生してしまった。特に、役員間、支部とチーム間等のコミュニケーション不足が不信感を増す大きな原因となったと考えられる。これは、コロナ禍により、通常と異なる支部運営が迫られたり、情報共有のための会議が開催できなかったりしたことも影響していたとみられる。
【総合所見等】 今後は、「子どもが楽しくバレーボールをすることができる」といった共通の願いを持った者同士、協力しながら組織運営できるよう、リモート会議等、様々な手段を用いて情報共有の場を充実させ、一人一人が自らの意見を発することができる環境を整えなくてはならない。また、チームの運営方針に連盟(支部・地域)がどこまで関わるべきかについては判断が難しく、今後の大きな課題として議論が必要である					

□トラブルを未然に防ぐために

◎時代とともに変わってきた指導法
 体罰→暴言→皮肉(ブラックジョーク)
 →アンガーマネジメント
 →ほめる(ポジティブシンキング)
 →みとめる(承認)

◎大人が子どものお手本に！

□トラブルの解決にあたってリーダーの心得

◎解決のほとんどは、折り合いをつけること。同じことを繰り返させないこと！

双方が納得すれば良い。
 第三者が見ても違和感のない解決策を！

3 解決の先には

綱紀粛正

- ・子どもを守る
- ・チームを守る
- ・指導者を守る

人材を育てる ケースGH

- ・社会貢献をしているベテスタッフを育てる
→ バレーボール人口を増やす
- ・子どもを支える保護者を育てる
→ 望ましい活動環境の構築

組織を育てる ケースI

- ・都道府県小連の組織力を育てる
- ・日本小学生バレーボール連盟と都道府県小連との連携を強化させる

ケース	第一報	主訴内容	通告内容	対応過程	処分内容等
G	JVA体罰・暴力の相談窓口に通報	・部員への暴言・暴力・パワハラ等	・部員への暴言・暴力・パワハラ等 小学校5年生である選手の頭をたたいた。練習試合において、当該監督は、選手の頭の左上の部分で、右手(平手)で1回たたいた。たたいた理由は不明だが、試合中にミスをしたからと思われる。また、監督は、日ごろから指導中に「アホ」、「カス」、「ボケ」、「殺したるか」などの発言をする。	・P県PA地区小連コンプライアンス委員会 参加者 P県小連理事長・PA地区小連会長・副会長・理事長・総務委員長 ○被害者へ事実確認、選手・保護者にヒアリング ○加害者へ事実確認	・指導活動停止6か月 ・2022年10月1日より6ヶ月の指導及びベンチ入りを禁止とする。 ・AW小学生バレーボール連盟常任理事(競技副委員長)の職は上記の期間、役職停止とする。 ・現在も指導に携わっている。(9/30まで)
	【総合所見等】 P県小学生バレーボール連盟からの最終報告書の中にある「都道府県小連としての再発防止対策」に地区小連でのコンプライアンス研修の実施、各大会(招待試合含む)において周知徹底を計る。とある。各都道府県小連はコンプライアンスに係る研修実施には、大変苦慮している。体罰・暴言等によるマイナス面を伝えるのではなく、特定のチームで指導効果を上げている「褒め方・叱り方」を例示し、効果内容を全チームで共有する方法も一考してみてもどうか。				
H	日本小学生バレーボール連盟HP「体罰暴力ハラスメント 通報窓口」に通報	・チームの監督・コーチによる不適切な指導および行き過ぎた指導	・不適切な指導	・地区倫理委員会を開く。 ・一部「お前なんかいらん」と言う暴言について否認。その他の暴言を含む選手を責める暴言については認めた。地区会長が「実践グッドコーチング」「共育ブック」の一部を印刷したものを使い、指導と説諭した。	・口頭による厳重注意 ・選手・保護者への謝罪および反省の姿勢を示した。
	【総合所見等】 S小学生バレーボール連盟は最終報告書で、このチームについては、1年間程度経過観察を行い、通報者とも連絡を取り合い情報収集していく。各地区には、共育ブックのデータを送り、健全育成に繋がる指導を心がけるよう、地区ごとに指導者への啓発を行っていく。S小連の保護下でチームを支援し、指導者をより良い姿に指導、育成するという方法は、他都道府県の参考事例となる。				
I	日本小学生バレーボール連盟HP「体罰暴力ハラスメント通報窓口」に通報 その後八木田コンプライアンス委員会委員長が小学生バレーボール連盟に伝える	・試合中、監督の記録席等への暴言	・暴言「ちゃんと記録ぐらいつけさせーや」と記録員を指導していたチーム指導者に対して監督が発言した事実	・コンプライアンス委員長が電話にて、第3者(該当試合担当審判、会場担当役員、観戦者)と監督本人に事実確認。その後コンプライアンス委員会の協議・処分決定、本人に口頭による厳重注意。	・口頭による厳重注意(監督談)威圧的に攻める気持ちは全くなかったが、暴言は事実であり、今後は繰り返しのないよう心がけるように注意した。
	【総合所見等】 T小学生バレーボール連盟は最終報告書で、共育ブックを活用して、コンプライアンス研修を実施し、再発防止に努める。ということである。このように審判団の判定がトラブルの遠因になるケースは少なくない。記録も含め審判の試合運営のまずさもあったのは事実である。審判員の研修も何らかの形で実施したい。と報告されている。ぜひ早急に実施してほしい。また、当事者にそういう威圧的な気持ちはなくても、それを見聞きした方が、威圧的で不快感を覚えるとしたならば、それは改められても致し方ない。総合的に判断して、T小学生バレーボール連盟のとった方向性は、賢明であると考ええる。				

「共育ブック」の効果的な使い方

このように使ってみよう！

印刷して、各チームへ配布。

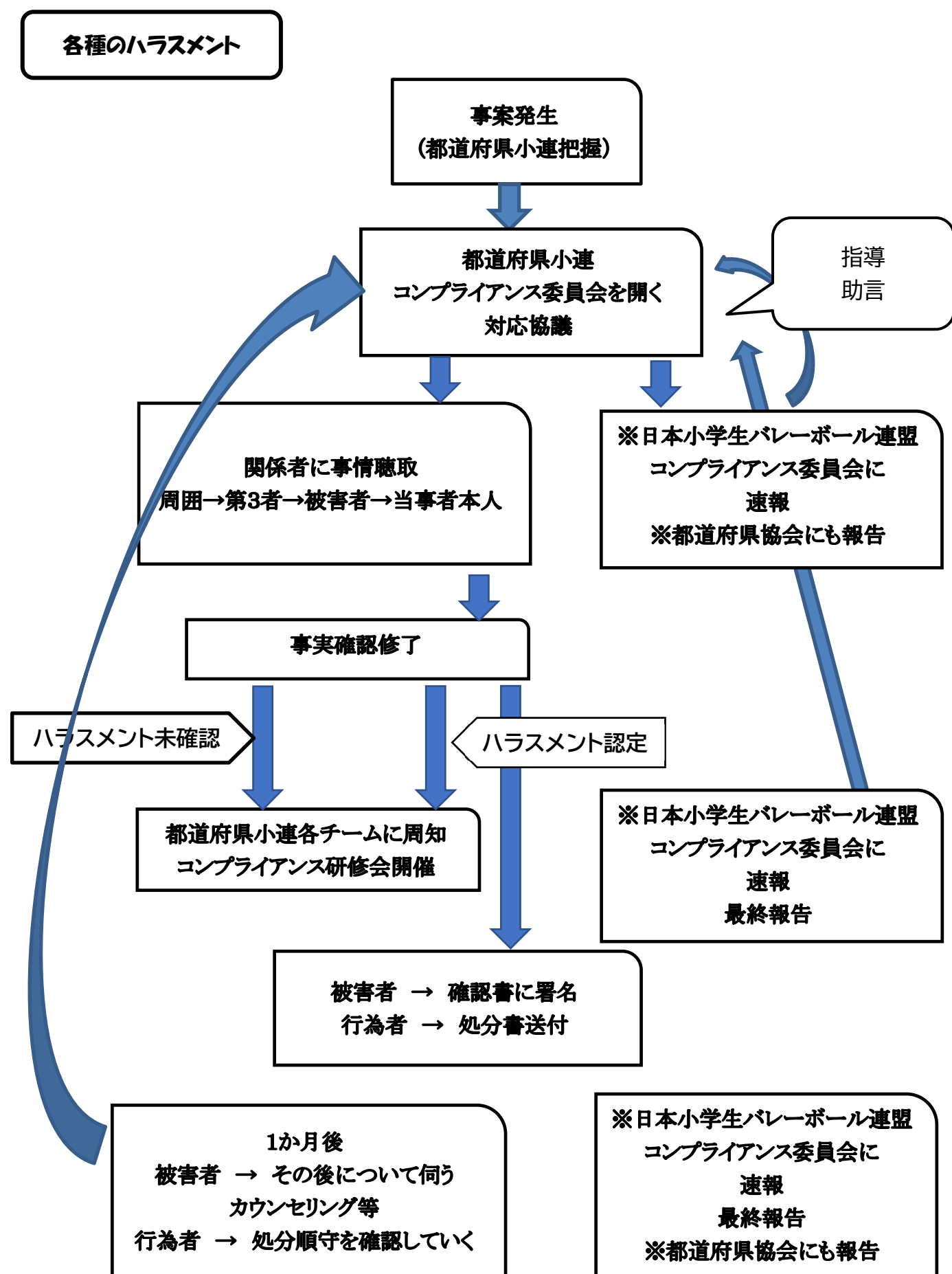
研修会を開く。

大会パンフレットに添付して配布し、広める。

開会式のあいさつで随時紹介。

ホームページで紹介。

6 各ハラスメントへの対応例(フローチャートやスキーム図)



7 不祥事防止のために

(1) 指導スタイルの見直し(意識改革)

バレーボール経験者の中には、「バレーボールは好きだが、子どもにはさせたくない」「もうバレーボールには関わりたくない」「思い出したくない」という方々がいます。

これは、バレーボールという競技の問題ではなく、これまでに経験したバレーボール環境に問題があると推察されます。

私たちの組織の存在意義は、バレーボールの普及が第一であり、その大前提が、生涯にわたるバレーボールを通した人間育成です。そのための大会、そのための練習であるはずですが、周囲や選手から勝利至上主義と思われるような指導（チーム）にはなってはいないでしょうか。

少子化、スポーツの多様化も関係しているとは思いますが、確かに今、ジュニアバレーボール選手が減少傾向にあります。その要因を精査したわけではないので、断定はできませんが、選手から次のようなメッセージが届けられていると思ってよいのではないのでしょうか。

「早く指導の仕方を改善してください。」

「大好きなバレーボールを、きらいにさせないでください。」

昨今のコンプライアンス事案の対応を重ねる度に、指導環境の改善の必要性を感じています。また、指導者のレベルアップ対策を講じる必要があるとも感じています。

「しつこく教え続けることが大事」「放っておくと手を抜く」「泣くまで鍛えなければ伸びない」などという、教え込み型指導スタイルから脱却しましょう。

今が、変わるチャンスです！

(2) 相手に伝わる話し方（令和4年 10月28日（金） 雫石将克氏講演会より）

講師：元RKC高知放送アナウンサー

パーソナルトレーニングジム経営

虫の鳴き声もしっとりと耳流れてくる秋。

メディアで露出も多く、端正な顔立ち、耳に気持ちよく入る声、そして一人一人への思いやりを持った雫石氏の語りは、参加者の心をとらえました。

アナウンサーという仕事を目指したプロセスや、今歩んでいる道にも興味をそそられました。会場からの質問の「目指すゴールは何ですか？」に答えられた「ゴールが見えない方が人生はおもしろそう。今は、今の目標に精一杯取り組んでいる。」にも、雫石さんらしい人生についての分析や考え方が示されていました。

以下に講演会の要旨をまとめています。伝えているつもりが伝わっていないから、声も大きくなったり、恐怖を感じさせる威圧的な指導になったり・・・ということを事前に防止するために、私たち指導者が身に付けておきたいことばかりです。

相手に伝わる話し方の極意

基本は腹式呼吸（鼻から息を吸って口から声を出す）

- 1 言葉を置くように話しかける
（心の中で、相手の方とあくしゅするように）
- 2 声の使い分け
明るく・元気に・さわやかに
- 3 相手に尋ねることから会話が始まる
聞く勇気を持つ

う の音階で！

メラビアンの法則

- 1 見た目 55%
- 2 耳に入るもの（言い方・イントネーション・言葉の表情・高低等を含む） 38%
- 3 言葉の内容 7%

ということは、話し方や声の使い分けで、印象が大きく変わるということです。

人の悩みはすべて人間関係の悩みである。（アドラー）

だからこそ・・・

- 1 えがおで話そう
- 2 意識してトーンを上げよう
- 3 思いやりのことは選べしよう

見逃さない

- ・情報を見逃さない
- ・心の動きを見逃さない
- ・チャンスを見逃さない

人がまだやっていないことへの挑戦・・・先が見える人生への不安

自分自身の可能性を広げ、伸ばしていきたい。

- ◆アナウンサーとスポーツジム経営の両立。
- ◆読み（話し方）教室の経営→ビジネスとして成り立たせたい。
- ◆日本全国の子どもたちが、話し方上手になり、幸せをつかめるように！
今できることを着々とこなし、まだ見えない夢への階段を上っていきたい。

「引き出し型」・・・子どもの意見を引き出し、深め、広げる技術

なかなか話せない子ども、意見を言うことにためらいがちな子ども、そうした子どもたちが思わず話したくなってしまう技術のこと。また子どもの話に、もう1歩突っ込んで話を引き出したい時の対話術です。

例：プラス評価＋疑問 呼び水ことばを使う

自慢話は体全部で聞く 自分を低い位置に置く など。

「寄り添い型」・・・子どもの心情や考えに沿い、包み込むことで安心を与える技術

学習を困難に感じている子ども、学校生活で問題を抱えている子どもに安心を与えることを目的としています。お家においても育てにくいなあ、困ったなあ、という時の対応にも役立つ対話術です。

例：合いの手を入れながら聞く「そうだね」「そうなんだね」

わからなさ共感する「先生もわからないなあ、困った」

そのままを認める「そうか、そう思っているんだね」

同じ表情をする。

今までの努力をピンポイントで褒めて、会話をつなぐ

「束ね型」・・・・・・・・自分の意見をもとに、学力をつけたり、

好ましい行動へと導いたりする技術

いくつかの子どもたちの意見を、どのようにまとめるのか。またまとめた上で、どのように次へとつなぐのかという対話術です。

例：ネーミング 「つまり」「一言で言うと」でキーワード化

簡単なことは高度に、高度なことは簡単に。

擬態語・擬音語で印象的に。

「直角と直角がガッシャンして、はい180度。」

「つまり」「一言で言うと」でキーワード化

下記の本は、学校の先生用に書かれたものですが、ジュニア指導や家族間でも十分参考になります。子どもとの会話を気軽にできることは大事ですが、いくら親しい仲であっても、何を言ってもどんなことをしても許されるというわけではありません。また、子どもは心身共に成長していくにつれて、周囲の大人との会話をお手本にするようになるし、また矛盾や疑問に鋭くつかかってきたり反発したりします。

この時、対話術というものを知っているか知っていないかでは、人間関係が変わってくると思います。ここでは、ほんの一部しか紹介できていません。でも、対話は大事、そして対話には、術があるという事はわかってもらえたのではないのでしょうか。

まず、大人の側からこの対話術を使って投げかけてみましょう。そうするときと、子どもの心が安定し、笑顔がたくさん見られ始めると、私たちは考えます。



8 支援・指導のむずかしい子どもたちへの対応

(1) 愛着障害と発達障害の理解と愛着の問題への支援

愛着障害とは、養育者との愛着が何らかの理由で形成されず、子供の情緒や対人関係に問題が生じる状態です。

右の本の著者は、「愛着障害」研究においては、日本で第一人者の「和歌山大学教育学部教授 米澤 好史氏」です。

指導が難しい子どもたちの中に、この愛着障害を疑われる場合も多いかと察し、ここにその要旨を紹介させていただきます。

「愛着障害」という問題が、クローズアップされ始めて、約10年が過ぎようとしています。児童の問題行動を先天的な脳の特性から見極めたのが、よく耳にするADHDやASDなどの「発達障害」です。「愛着障害」は、脳機能は正常に生まれても、その後の養育者とのかかわりの不完全さによって、後天的に下記のような問題行動を発現させる特徴を持つ子どもたち（大人にも表出する場合あり）の総称です。



【愛着障害の典型的な症状】

- ・過度に人を恐れる
- ・誰に対してもなれなれしい
- ・精神的に不安定または攻撃性

(自尊心や自己評価が非常に低くなったり、落ち込みやすくなったりする)

【愛着障害の要因】

- ・養育者と死別または離別した
- ・養育者から虐待やネグレクトを受けていた
- ・養育者が子どもに対して無関心だった
- ・他の子どもと差別されて育てられた
- ・養育者が頻繁に変わっていた

【愛着障害の改善に向けた対応】

心の拠り所である「安心基地」(守られている感覚を抱く養育環境)「安全基地」(前向きな気持ちを抱かせる養育環境)「探索基地」(チャレンジ精神・自立心を培う養育環境)が不十分であると、愛着がうまく形成されません。そこで、彼らの行動の改善には、信頼関係を築くキーパーソンによる「安心基地」の確保が重要となってくるのです。

- ・愛着障害のメカニズムを理解
- ・スキンシップの時間を増やすように心がける
- ・顔を合わせてコミュニケーションを取る
- ・子どもの感情に寄り添う
- ・親子関係に焦点を当てる
- ・愛着障害は環境によって改善することを理解する
- ・家族の支援や保育サービスを利用する

大人の愛着障害

幼少期に愛着関係が十分に形成されなかったことが原因で、大人になっても人との間に信頼や親密さを築くことが難しい状態のことを指します。

この状態では自己否定や孤独感、寂しさなどの感情が強く現れることがあります。

治し方(改善方法)

キーパーソンの存在が不可欠
(信頼できる・安心できる)

1. 心の安全基地をつくる
2. 困っていることを整理する
3. 無理に人と関わらない

（２）幼児・児童生徒にたいする理解と支援のあり方

（１）の愛着障害の研究からもわかってきたように、この世の生きにくさを好転させるのは、やはり最大の理解者を持つことです。だからこそ、子どもたちの最も身近にいる私たち大人が、子どもや保護者の理解者になれるよう、子どもの心の理解と時代の先よみについて、日々研鑽を積むことが大事だと考えます。

下記に、子ども理解や支援の仕方についての研究家である岡田教授からの子育てや指導法のポイントを抜粋します。

『 高知大学 岡田倫代教授 講演会から 令和４年７月２７日（水）サンパレス室戸 』

ほめる

自分の気づいていないことをほめられるとすごくうれしい。

子どもの特徴

子どもはみんな自己中心、自己愛が強い。

メタ認知（自分を客観的にながめること）ができない。

発達障害児の特徴

空気を読むことが苦手

裏読みができない ⇒動作で・具体物提示・視覚支援（身に見えるもので伝える）

省略形の会話への参加も苦手。

依存症の特徴

楽しい（快樂）ものに依存。慢性的になり、自分の意志でやめられなくなるのが怖い。

カウンセリングの基本

- ① まずほめる。みとめる。次にひたすら聞く。
- ② 相手が話し始めたら、オウム返しで、会話を広げていく。
- ③ 内面を語る本音トークへ

見方を変えてしてみる（リフレーミング）

見る角度を変えて見ると、短所も長所が変わる。許せるようになる。きらりと輝くポイントになる。

(3) 支援・指導のむずかしい子を支える魔法の言葉

～「話せばわかる」が通じない～

「支援・指導のむずかしい子を支える魔法の言葉」(小栗正幸監修)を参考に、「話が通じない」「聞く耳を持たない」等の子ども達との関わり方について紹介します。この本の中には支援に行き詰った時のヒントが多数紹介されていますので、バレーボール指導者の皆様にも、大いに参考になるものと思います。下記にその要旨をかいつまんでまとめてみました。

① 困らせる子＝困っている子でしょうか？

周囲を困らせる子には2つのタイプが存在します。1つは「自分自身が困っている子」もう1つは「自分自身が困っていない子」です。

前者の場合は、子ども自身に「何とかしたい」という気持ちがあれば、その子に応じた改善方法を見つけることで育ちのゆがみを修正し、彼らを望ましい方向へと進めていくことが期待できます。

問題は後者の「困っていない子」への支援・指導です。根気よく接しようとしてもなかなか変化が見られない場合、支援・指導する側にも、不快な思い(イライラ・ストレス・徒労感)が生まれやすくなります。そのような時には、「むずかしい子」だと見放すのではなく、その背景にあるものを見出し、適切なかわりを探っていくことを考えましょう。



② 支援・指導のしにくさの裏側に、「メタ認知」の不調あり

支援・指導がむずかしいと思われてしまう子には、共通の側面が見られます。そのキーワードとなるのは「メタ認知」。社会性の獲得に欠かせないメタ認知(自分自身を客観的にみつめる力)の獲得ができていないのです。自分の姿を客観的にみられないため、「自分自身が困った状況にある」ということに気づきにくいという特徴もあります。

③ 「メタ認知」を獲得しにくくする三つの要因

i 発達障害の存在(「脳の未熟さ」と「先天性の脳機能障害」)

相手のことを想像する力がもともと弱い。

こだわりが強く、視点の転換が難しい。気が散りやすく、思いつきで行動する傾向が強い。

ii 虐待を受けてきた・受けている(愛着障害の存在・脳の成長未熟)

iii 「うまくいかない経験」の積み重ね

④ 「説諭」「受容」は困っていない子には逆効果

「反論・説諭」を行うと・・・攻撃された・否定された と思ってしまう。

「傾聴・受容」を行うと・・・やっぱり私はダメなんだ とさらにネガティブになってしまう。

⑤ 困っていない困った子にこそ必要な「対話」でのやりとり

「対話のきっかけづくり」・・・【魔法がかかれば対話が進む】

*対話のきっかけをつくる“的外しの魔法” ⇒⇒⇒ 「困っていたんだね」

*暴言・暴力が多い子に“「気づき」を促す魔法” ⇒⇒⇒ 「がまんしていることが多いよね」

*他者批判をする子に“視点をを変える魔法” ⇒⇒⇒ 「そこに気がつくきみはすごい!」

*虚言癖がある子に“ウソを終わらせる魔法” ⇒⇒⇒ 「あ、きみ〇〇に興味があるの?」

*「死にたい」という訴えがある子を安全圏に導く魔法⇒⇒⇒ 「～してくれてありがとう。」

9 具体的な研修のすすめ方(例)

(1) 全国コンプライアンス委員長会議

令和5年3月12日(日) 10時～16時

東京体育館第2会議室

- | | |
|------|--------------------------------------|
| (1) | 開会 |
| (2) | 日小連工藤会長挨拶 |
| (3) | 反コンプライアンス問題の現状と課題について・・・・・・・・・・(八木田) |
| (4) | コンプライアンス規程及び処分基準について・・・・・・・・・・(鈴木) |
| (5) | 共育ブックの活用について・・・・・・・・・・(竹村) |
| (6) | 今年度の反コンプライアンス問題の分析・・・・・・・・・・(阿部) |
| | ※指導にかかわるアンケートの結果・分析報告 |
| | 昼食 11:30～13:00 |
| (7) | 事案発生時の対応について・・・・・・・・・・(後藤) |
| | ※演習 |
| (8) | その他 「夢に向かって」プレゼン・・・・・・・・・・(竹村) |
| (9) | まとめ・・・・・・・・・・大内理事長 |
| (10) | 閉会 |

念願の対面でのコンプライアンス委員長会議開催に、私たち委員の心中は高鳴っていた。

小学生バレーボールの指導者の体罰暴言指導が問題になり、日小連に倫理委員会が立ち上がって以来、このような研修会の開催の必要性を訴えてきた者にとって、この日は記念すべき日となった。そして長年温め準備してきた内容を、日本各地より参加していただいた、各都道府県のコンプライアンス委員長さん方に、小学生バレーボール界の健全化を願って心からの説明をさせてもらった。



令和4年度は、リモート開催であり、私たちが胸に抱いてきたジュニアバレーボール界の危機感が、日本各地にどのように受け取られ、そして実際にどのように伝達されていたのかどうか、大変不安であった。しかし今回は、伝えたい方たちが目の前におられ、反応も直に感じる事ができた。そして研修会後のアンケートからは、「大変勉強になった、気づきや発見が多々あった」という好意的な評価を多数いただき、委員一同ほっと胸をなでおろす事ができた。感慨無量であった。また、今後の活動への意欲にもつながった1日となった。

下記に、当日記載していただいたアンケート結果と主な感想を紹介させてもらっている。小学生バレーボールの未来は明るいと言断できる内容がほとんどである。「各都道府県のコンプライアンス委員会の活動の充実にもつながる研修会にもなった」と委員相互で称え合った研修会であった。本研修会は令和5年度も開催予定である。



アンケートからもコンプライアンス委員会への期待度の高さがうかがわれる。その期待に応えられる活動を目指し、これからも新たな情報を積極的に収集したり、伝え方を工夫したり、令和の時代にあった指導方法を提案したりしながら、消火よりも防火に力点を置いた委員会活動にしていきたい。そして、組織の継続発展に向かって最大限の貢献をし

ていきたい。

アンケート結果報告

1 コンプライアンス研修会に参加してよかったですか。

- (18名) とてもよかった (16名) よかった
(0名) どちらとも言えない (1名) あまりよくなかった
(0名) よくなかった

2 1にしるしをつけられた理由をかんたんにお答えください。

よかった理由

○都道府県小連の現状が把握できました。

○コンプライアンス規定のこと、事案から学ぶべきもの、未然防止の大切さまで、幅広く学ばせていただきました。演習から気づかされることも多く、聞き取り調査の難しさも感じました。知識を持っておく必要があること、計画をしっかり立てることも含め、チームや県小連で取り組んでいきたいです。

○集合研修で、久々に多くの声を直接うかがうことができ、研鑽を深められてよかったです。

3 お話を聞き、これからこういうふうになりたいなあ、と思ったことがあれば教えてください。

○都道府県小連の総会で、上記のプレゼンを使って研修をする機会を作りたいと思いました。

○共育ブックの PDF を早く広く普及させたいです。

○共育ブックや今回のパワーポイントデータ等を活用して、指導者の意識改革を行い、指導者の質を高めていきたいです。

○事案が発生しないようにするために、研修会を開くだけでなく、プログラムに資料を掲載したり、HP に載せたりしたりして、防止に努めたい。

○消火よりも防火に心掛けたい。

○コンプライアンス委員長として発信したり、自ら姿勢を示したりして、学び続けていくことの必要性を広めていきたいと思いました。等

5 次回のコンプライアンス研修会において聞きたいテーマやご希望があればお知らせ下さい。

○さらに具体的な対応

○各県で困っている内容の調査とそれをもとにしたグループ討議を含めた研修会

○対応が難しかった事案のケース会

○行為者(調査対象者)からの攻撃に対応する方法

今後のコンプライアンス委員会の目指す道

1 規約等の整備

2 適切な事案対応

3 体罰・暴言防止に向けた取り組み(研修会開催や広報活動)

4 共育ブック追記版の R5 年度内完成

・女子選手減少の考察と分析・対策

・令和型のチーム運営の普及(選手主体・全員活躍型のチーム運営のすすめ)

5 美・品・愛・「チャレンジ」「貢献」・「ふるさと創造」を大事にした新しい都道府県小連づくりへのサポート

ダーティイメージの払拭!

JVA や各都道府県協会や小連のコンプライアンス委員会との緊密な連携

（２）愛媛県小連コンプライアンス研修会

令和5年2月5日（日）

【研修例】



令和4年度 愛媛県小学生バレーボール連盟 コンプライアンス研修会 レジメ

日本小学生バレーボール連盟
コンプライアンス委員会 竹村 和男

前半(50 分間)10:00～10:50

- 1 自己紹介
指導歴・設立チーム・指導チーム 等
- 2 コンプライアンス委員会の活動(共育ブック参照)
トラブルへの対応
トラブル未然防止
- 3 本年度の事例から(配布資料参照)
- 4 共育ブックの活用について(パワーポイントにて説明)

(10分休憩)

パワーポイント データ

後半(50 分間)11:00～11:50

- 5 事例から学ぶ(グループワーク)
- 6 これからの小学生バレーボール
メンバー増のチーム紹介(共育ブックアンケートからの紹介)
ゆめに向かって「ハートフル7」(パワーポイントにて説明)
- 7 アンケート記入(配布アンケートに記載⇒回収)
- 8 質疑

検討事例印刷して持参
パワーポイント データ
模造紙+付せん+名前ペン

パワーポイント データ

アンケート準備
参加者 筆記用具持参



コンプライアンスを直訳すると「法令遵守(順守)」簡単に言うと「会社の規則 法令 社会で守られているルールを守ること」です。様々な種類がありますが、一般に使われている意味としては、企業や組織コンプライアンスの意味で使われる事が多いでしょう。

2月5日(日)に、愛媛県伊予市にて行われた愛媛県小連コンプライアンス研修会に、日本小学生バレーボール連盟のコンプライアンス委員会からの派遣として、2時間お話をしてきました。

初めての地で約80名近くのジュニアバレーボールの指導者を前にして、大変緊張しましたが、パワーポイント資料や校長室だより、そして日小連HPにもUPされている、「～選手を守る・保護者指導者も守るから共育ブック～」を使用して、研修会を無事終える事ができました。



伝えたポイントは、以下の通りです。一部抜粋してご紹介させていただきます。

- 1 スポーツ活動も企業活動同様、コンプライアンスに対する知識・理解が組織発展の根幹である。
ボランティアなのだという甘えはタブー。R4コンプライアンス規定違反50件。
- 2 リーダーになる方は、クレーム対応力を持ち合わせておくことが必須である。
- 3 根性・熱血→選手主体・チームワーク
→科学的に証明されたトレーニング・脳科学と連動したメンタルトレーニング
- 4 すべての経験は、今これからの成長への糧である。
過去の栄光も挫折もすべてがこれからの成功への布石となりえる。
今からが大事。
ポジティブトークで集い合う仲間。
- 5 選手主体が理想、それには指導力が必要。目指そう名監督。
勝利に向かうプロセスが大事(勝ち負けを超えた価値のある戦いがある)
- 6 愛媛には愛がある。
あなたのために・自分のために この両方とも大事！
愛は力、しかし過度の愛は自分を見失わせる。俯瞰力を！真のサポーターを持とう！



アンケートより

- ・このような研修会を初めて受けました。新しい情報がたくさんあり、今までの指導を振り返るよいきっかけとなりました。練習に取り入れていきたいです。
- ・何のためにジュニアバレーボールの指導をしているのかを考えました。楽しい時間を与えてくれている子どもたちに感謝しながら、指導を続けていきたいです。

10 各都道府県コンプライアンス委員会の活動例

ある県の方から、以下のようなメールをいただきました。

本年度（※本来は以前から設置要請を行ってきましたが、日小連コンプライアンス委員会）より各都道府県にはコンプライアンス委員会が設置されていますが、なんらかの問題が起きた時に活動している委員会であると推測されますが、その活動が見えません。そういった問題が起きた際に、全加盟チームにフィードバックが無いということです。コンプライアンスに関する問題は、全加盟チームに連絡を入れる必要があると思います。各チームで同じような問題を起こさせないためにも必要なことですし、秘密主義はよくないと思います。以上のことから情報公開をすることを意見としてあげさせていただきました。（趣旨抜粋）

今の時代、組織はコンプライアンスあつての組織とも言われるようになっていきます。日本小学生バレーボール連盟においても、約10年以上前（平成24年度）から、倫理委員会を特別委員会として立ち上げ、令和2年には、コンプライアンス委員会として改名し、常任委員会となりました。その当時から各都道府県小連の役員の方々には、それぞれにコンプライアンス委員会を設置していただくように、常任委員会となる前からお願いをしてきています。

コロナ禍であったため、ズームでの開催となりましたが、一昨年度に初めて全国コンプライアンス委員長会議を開きました。また令和6年3月には、対面によって第2回目のコンプライアンス委員長会議を開催しています。メールを出された方は、この時期からの活動によって、やっと日小連コンプライアンス委員会の存在を認識されているようです。また、これまで、事案対応についての流れについても正確な情報を得られていなかったようです。

各都道府県小連の役員の方々であっても、まだ認知が行き届いていないということを感じます。そこで以下に、ある県のコンプライアンス委員会の活動を例として、紹介させていただきました。ぜひ参考にしてもらえればと思います。

なお上記の事案発生後の対応については、共育ブックの中の（8 報告書から見えてくるもの（各事例からよみとる））を参照ください。当然何らかの方法で、各チーム責任者には知っておいてもらうことが必要です。この機会に再確認、周知等をお願いいたします。

〇〇県 コンプライアンス委員会

《目標》

ど真ん中に子どもがいる日小連

つながりボール つながり思い つながり未来 そしてつながり のばそう 〇〇県小連。

目指すは、勝敗を超えた感動！感動を超えた人づくり

《活動方針》

〇子どもたちが安心して楽しくバレーボールができる環境づくりに貢献する。

〇トラブルを未然に防ぐとともにトラブル発生時には当該都道府県小連と連携し、速やかにその対応にあたる。

〇県内のジュニアバレーボールクラブの指導に携わるの方々に対して、共通理念（コンプライアンス規定）等の共通理解を図り、小連が統一した活動ができるようにする。

《活動計画》

	活動	活動内容	場所
3月	全国コンプライアンス 委員長会議参加	全国コンプライアンス委員長会議参加	東京都内
4月	総会における研修会	コンプライアンス規定違反の事例紹介 コンプライアンス委員会だより14 発行	〇〇センター
5月	臨時総会におけるプレゼン	全国コンプライアンス委員長会議伝達 コンプライアンス委員会だより15 発行	〇〇センター
6月	第1回〇〇小連コンプライアンス委員会	日小連コンプライアンス規定の学習会 〇〇小連 新・啓発ポスターについて コンプライアンス委員会だより16 発行	〇〇体育館
8月	親睦会		
11月	第2回県小連コンプライアンス委員会	〇〇小連 新・啓発ポスターについて アンケートについて	〇〇体育館
		〇〇小連アンケート 作成・配布	
1月	第3回県小連コンプライアンス委員会	県小連アンケート 集計・考察 県小連 総会原稿について 年間の活動の総括	リモート会議
2月	総会における研修会	コンプライアンス委員会だより17で 共育ブック追記版情報	〇〇センター

★トラブル発生時の対応について

(1) 〇〇小連理事長（コンプライアンス委員長）と各ブロック長との連携を図る。

(2) 調査方法の検討並びに報告書の作成・送付

① 〇〇小連コンプライアンス委員会で調査方法等について検討する。

② 【速報】を日小連事務局へ送付

③ 当該小連による調査

④ 調査活動の結果検討（処分等について）

※都道府県バレーボール協会と連携し、処分等について検討。

⑤ 【最終報告書】を日小連事務局へ送付

※【最終報告書】は JVA にも事務局から送付されます。

内容次第では JVA から別途報告書の提出依頼があります。

（行為者が JSPO 有資格者の場合）

※調査等が不十分だと判断された場合は日小連より当該小連へ再調査等の依頼があります。（調査不十分の場合、調査を行う側も処分の対象者になる場合あり。）

★各地区での研修会への講師派遣

〇〇小連の各ブロックから、コンプライアンス研修会の要請があった場合は〇〇小連コンプライアンス委員を派遣します。

★コンプライアンス委員会だより（年間3～5回程度発行）を中心に、「勝敗を超えた感動を」「感動を超えた人づくり」に向かって、広報活動に尽力します。

11 指導者と保護者のよき関係を構築していくために

指導者と保護者のより良い付き合い方

保護者と指導者は子どもたちにとって最も身近な大人です。「環境が人を作る」「人は環境の生き物である」と言われますが、バレーボールがうまくなるかならないか、バレーボールを通してより良い人間に育つかどうかは、バレーボールをプレーする環境、つまり保護者と指導者の関係によって決まる！ と言っても過言ではありません。

「スポーツライター 大塚一樹（おおつか・かずき）」

ここでは「保護者と指導者」をテーマに、両者のより良い付き合い方について考えます。

★指導者としては・・・

信頼してまかしてほしい。
指導方法に口出しは控えてほしい
子どもたちのプレーや判断を尊重してあげてほしい
あいさつはマナーは家庭でしつけておいてほしい
指導者の立場も理解してほしい
指導以外のサポートはお願いしたい

★保護者としては・・・

子どもを大事にしてほしい
コミュニケーションをとってほしい
指導力のレベルアップに努めてほしい
保護者の立場を理解した、練習計画や大会参加を行ってほしい。
スポーツだけでなく、人としての成長にも期待したい
子どもが楽しい、また行きたいというクラブにしてほしい
などの声が、各アンケート等（共育ブック参照）にも寄せられています。

前述したように、バレーボール活動の満足度は、保護者と指導者の関係によって左右される、と言ってもいいくらいでしょう。もともと指導者と保護者は、「子どものスポーツの力を伸ばす」「子どもにスポーツを楽しませる」「子どもの人間的な成長を後押しする」という同じ願いを持つ運命共同体のようなものです。ゆえに、トラブルとは縁のない関係であるはずですが、中にはその方法論や考え方の違いによって、他の機関が介在して解決策を見出さないとはいけなくなったり、コンプライアンス事象にまで発展したりする場合さえあります。

しかし、保護者と指導者の意見が一致していても、主人公である子どもの心を脇に置いた一致は危険です。体罰暴言の容認や勝利至上主義は、その象徴です。これには、充分気を付けてもらいたいです。

消火より防火、そして火種はできる限り小さいうちに、というのが、トラブル解決のいろはであります。首をかしげるようなチーム作りには、みんなで、注意し合える関係づくりを目指しましょう。

12 これからのチームづくり

時代とともに、価値観が多様化し、スポーツに対する考え方にも大きな変革が見られます。世代交代の必要性も聞かれる昨今ですが、交代するのは人ではなく、チーム作りの方法です。日小連の「ど真ん中に子どもがいる」を念頭に、自己の指導方法を客観的に見て、振り返ることができる指導者には、子どもは自然に集まってくるでしょう。ここにはその具体的な方法を列記してみました。

(1) PDCA サイクル (Plan→Do→Check→Action) によるチーム運営

※まずは、現在の状況を的確に客観的に把握しておきましょう。

◇人的環境	指導者 (指導力・置かれている状況) 選手 (学年・個性または特性、特徴) 保護者の状況 (家庭環境・スポーツに対する考え方)
◇物的環境	練習場の環境 用具 (ボール、ユニフォーム等) の整備状況
◇経済的環境	運営費の調達方法 運営費の使途への共通認識 (物品購入費、練習会場費、人件費、大会参加費、遠征費等)
◇サポート体制	練習場所の提供等の地域の応援 地方自治体の応援や指導者確保への支援

P 計画する

- ・ チームの運営方針の設定
- ・ プロセス重視・楽しい・美しい・チャレンジ・そして品格あるチームづくりを目標に
- ・ 楽しく、効率的で、3つが動く練習を計画 (人が動く・ボールが動く・心が動く＋声が飛ぶ) な練習を計画
- ・ 選手主体・全員参加型の練習スタイル

D 実行する

- ・ 個人練習 → ペア練習 → トリプル練習 → シート練習・チーム練習
→ 練習試合 → 大会

C 評価する

- ・ 計画に対しての行動、および行動の結果として目標は達成できたかの振り返る

A 改善する

- ・ 新たな目標設定
- ・ 日々の練習メニューの改善

(2) 選手主体のチーム作りへ

今注目されている生成系 AI で「選手主体のチームを作りたい」と聞いてみると…

選手主体のチームを作りたい（抜粋）

・選手主体のチームづくりは、チームのマネジメントグループを必要とし、またリーダーシップと共同意思決定能力を持った選手が必要となります。成功のためには、リーダーシップの育成が必要です。選手が自己責任を持ち、主体的に活動するためには、リーダーシップ育成プログラムを提供することが効果的です。

という回答でした。

これまでは、指導者が子どもたちへアドバイスを出すという指導が中心でした。しかし、子どもたちは、指導者からのアドバイスを受けている最中にも、「なるほど」「はやくやってみたい」「うーん、わからん」などという心内語を発しています。そして、自分にとって良い指導とそうでない指導を感じ取っています。

指導者側からすれば、なかなか伸びない子やアドバイスを理解していないように見える子には、「何がわからないかを言ってもらえたらわかるのに。」「あの子は何を考えているのかわかりません。」などと言いたくなるものです。お互いの思いを通じ合わせるのは、大人同志の場合と同様、子どもと大人、選手と指導者の関係であっても、容易には進まない場合が多くあります。

この課題解決のために、子どもたちに「まかせる」という方法もありはしないでしょうか。個人差はあるものの4年生くらいになると、子どもの視野は格段に広まっていきます。このあたりから、指導者が少しずつ、練習内容選びや練習自体の工夫を子どもたちと相談し合ったり、委ねたりすれば、上述の心のすれ違いの悩みが解決されるだけでなく、子どもたち自身のモチベーションやチームワークのアップにもつながっていきそうです。

支援とは

「具体的なアドバイス」
「元気づけるアドバイス」
「聞く」
「見守る」
「手伝う・フォローする」

の5つが中心になると言われます。その中でも「見守る」をワンランク昇華させた「まかせる」も、レベルの高い支援方法だと考えます。

ただ「まかせる」のではありません。**技術向上のための入念な調査、スモールステップを見極めた練習メニューの例示、指導者の適時適切な確なアドバイスをもった「まかせる」**です。

このような練習体制の構築が、これからのバレーボールクラブ運営の目指す方向の一つであると考えます。

AIからのアドバイスである、リーダーシップ育成もそこから見えてきそうです。

(3) 選手主体・全員活動型の練習体制（具体例）

昨今、ジュニアバレーボールクラブの中には、自分たちで考えて練習を行っているチームもあると聞きます。

「できそうもないからやらない、変わらない」と考えるのではなく、「どうしたらできるだろうか」と考えると道は見えてくるものです。

下記に、その練習メニューの一例を掲載しています。ほとんどが、壁や仕切りネットなどを使っての個人練習中心です。2人組の練習では、球出しがうまくいかないと非効率な練習になってしまう可能性があるのも、少なくしているのです。そのような辺りから、日々の練習を再考してみてはいかがでしょうか。キーワードは「**試合で使うプレーの練習**」「**試合につながる個人練習**」そして「**選手主体・全員活躍型の笑顔あふれる・夢追求型チーム**」です。

〈選手主体・全員活動型の練習メニュー 例〉

【ストレッチ】【ランニング】【ブロック練習】【ラダー】【ボール前後】

【一人で】

- ① 自由に動きながらの オーバー 50
しゃがんで立つオーバー 10
- ② 自由に動きながらの アンダー 50
しゃがんで立つアンダー 10
- ③ オーバー右回転3周 アンダー右回転3周
- ④ ネット跳ね返りアンダー10
ネットぎわオーバー右反転10 左反転10

【かべを使って】

- ① オーバーパス 30
- ② アンダーパス 30
- ③ 投げてアタックレシーブオーバー 10
- ④ 投げてアタックレシーブアンダー 10
- ⑤ 片足ジャンプバックスオーバー 5
- ⑥ 片足ジャンプバックスアンダー 5
- ⑦ オーバーセッター練習 左右 5ずつ
- ⑧ アンダーセッター練習 左右 5ずつ
- ⑨ 下がってオーバー 10
- ⑩ 下がってアンダー 10
- ⑪ 走り込みひざつきオーバー 5
- ⑫ 走り込みひざつきアンダー 5
- ⑬ スライディングアンダー 5

アドバイス(例)

アンダーパスポイント

面をつくって！
内側の足を前に！
ジャンプしながら
いつもひじが
見えるように前で！

アドバイス(例)

オーバーパスポイント

最後に人差し指を進行方向に！
手首を折る
ジャンプで勢いをつけて！
指の腹を使う！ など

アドバイス(例)

スパイクのポイント

スタンディングでミート練習

スパイク練習メニュー

壁打ち

ネットを使ってミート練習

ネットに向かい、投げ上げスパイク練習

セッタートスのスパイク練習

【二人組】

- ① 起き上がりオーバー10
起き上がりアンダー10 背筋オーバー10
- ② オーバーパス 30
- ③ アンダーパス 30
- ④ フェイント対人走り抜け 30 秒
- ⑤ オーバーパスタッチ 10
- ⑥ アンダーパスタッチ 10
- ⑦ オーバーパスタッチセッター練習
オーバー5×2 アンダー5×2
- ⑧ 跳ね上げオーバーレシーブ キャッチ10×2
- ⑨ 対人レシーブ2分×2 ※声をかけ合おう！
- ⑩ サーブ&レシーブ 合計20
- ⑪ ネットをはさんで

【三人組】

- ① 3人チェンジパスオーバー30
- ② 3人チェンジパスアンダー30
- ③ 三角パス オーバー30
- ④ アンダー30
- ⑤ 三人対人レシーブ
前2 レシーバー1
前1 レシーバー2

【ネットを使って】

- ① オーバーパス 30
アンダーパス 30
- ② サーブ&レシーブ
- ③ ミニゲーム

【サーブ練習】 【スパイク練習】 【6人サーブレシーブ練習 一人10本】

※コート半面使ってチャンスボールからのアタックキャッチまで

※相手コートからスタンディングアタック・フェイントを交えてチャンスボールからの乱打

指導環境改善案

1 指導者の意識改革

バレーボールは素晴らしいスポーツである。これは今も昔も変わらない。選手数減は、我々指導者の指導法の問題である。

2 指導者の指導力UP(コーチング)

その子に備わっている力(潜在的な能力)を引き出す。

カウンセリングマインド スモールステップの提示

アンガーマネジメント・ポジティブトーク(ペップトーク)

効果的効率的な全員参加型練習メニューの提示と練習環境の設定

正しいフォーム指導 組織マネジメント力の学習

3 選手主体・全員活躍型

○選手主体型の練習

各自に自由に練習させる(休憩時間の有効活用)。

○注意や指導は簡潔に明瞭に！

○指導者と選手は仲間 チーム○○意識

(戦術も練習メニューもいっしょに考える)

○ポジティブシンキング

(ミスの指摘よりもチャレンジを評価する指導)

(4) モデル型からコーチング型へ

コーチングとは、相手の話に耳を傾け、観察や質問、ときに提案などをして、相手から内面にある答えを引き出す手法のことです。これによって、

- ① 自分自身で答えを導き出す能力（思考力・判断力）
- ② 主体的、自主的に物事に取り組んだり考えたりする姿勢（自主性）
- ③ 新しい価値観や新しい答えにたどりつこうとする前向きな気持ち（学習意欲）

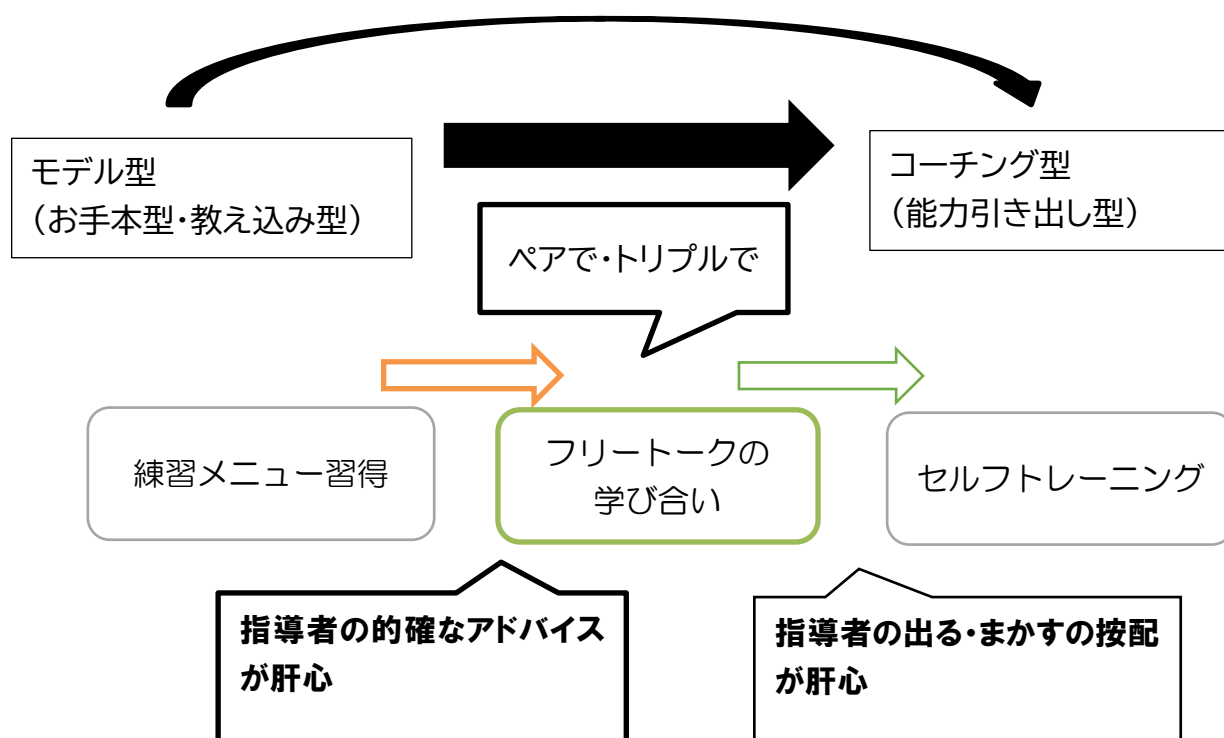
を身につけることができます。

指導者の役目の中の「知っていることを伝える」ということが終わったわけではありません。指導者に豊富な知識があり技能に長けていた方が、そうでないよりは、指導する地力が備わっていると云えます。しかし、ネット環境が整った今、知識は無尽蔵に、すぐにディスプレイから手に入ります。また、技能の習得のヒントになる動画も簡単に見られる時代です。

そこで、これからの指導者には、それをどうわかりやすく目の前の選手に伝えるのかというコミュニケーション力が、指導力の高い低いを決める大きなかぎになるでしょう。そして、もう一つの指導者に欠かせない力、これが、上記のコーチング力です。

知識・技能 コミュカ コーチング力 この3つが、学習者（大人を含む）の前に立つ、指導者の3大必須能力とも言えます。これは、吉井正人著の「最高のコーチは教えない」の中にも記載されています。

選手主体・全員活躍型チーム作りを通して、私たち指導者自身も、指導の地力向上に努めていきましょう。バレーボールを通しての子どもたちの幸せのために！



★ジュニアバレーでよくみられる威圧的態度が顕著な指導者の行動例

- きちんとベンチに座らず腕組みや足組みをしての指示
- 手をポケットに入れての指導や顎を使っての指示
- 選手に人差し指を向けての指示
- からかいや嫌みを言いながらの欠点の指摘
- 意図的に無視をしながらの球出し
- 罵声・怒声・ミスの追求により、選手に威圧感を与える
- 長時間のにらみつけや説話
- ミスプレーへのオーバーアクション
- 自チームの試合を無視して選手に指導を行わない
- 不公平を感じる選手への対応
- 服や手からの強いタバコの匂い
- 保護者への過剰な要求（整列・給仕）等

指導者が勝負の場面で横柄な態度を取り、それが強いチームの指導者には必要だという感覚を持つことは、新しい時代の指導者には相応しくないと言っても良いでしょう。なぜなら横柄な態度は相手に不快感を与えるからです。このような指導は、バレーボール競技自体に良くない印象をつくることになります。

大会時の応援団のマナーについて

★気になる応援団の行動例

- ジャッジに対する不満・批判
- 施設を利用した応援（転落防御用の柵をメガホンで叩く）
- 審判の笛が聞こえない応援
- ミスをした選手に人差し指を向けての指示
- ミスをした選手への怒りや指摘
- 遠くまで聞こえるようなネガティブ発言
「もう負けた」「やっても無駄」「帰ろう！帰ろう！」「選手代えて」など
- 周囲の迷惑になるような座り方・座席の使い方
「必要数以上の座席の占拠」「前席に足をかける」など
- 応援の場に相応しくない周囲の注目を得る行為
「上半身はだか」「ダンス」「不可解なかぶりもの」など

大会パンフレットには、応援の仕方やマナーについて以下のような記載が見られます。

試合の妨げになるような過度な応援は、お控えください。また施設を利用したり、大音量になったりする楽器等の使用はお控えください。
あからさまな審判への不服の表出や相手チームへの罵声等は、厳に慎んでください。

応援も過激になり、周囲に嫌悪感を抱かせるようになれば、それはもう応援ではありません。プロ野球球団も、HP に、以下のようなメッセージを掲載しています。

【重要】応援に関するお願い R5シーズンから球場で球団歌、ヒッティングマーチを歌うことや、選手に声援を送るなどの声出し応援が可能になっておりますが、観戦されるファンの皆様におかれましては、「選手を誹謗中傷するようなヤジ」や「侮辱的な替え歌」は絶対にお止めいただきますようお願いいたします。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(H 球団)

ジュニアバレーボールの場合は、保護者が応援団の中心です。我が子だけを見るのではなくチームの応援団としてポジティブにグッドマナーで声援を送ってください。

※ベンチスタッフへの警告カード 例

- 公式練習中のベンチスタッフへの暴言・暴力
- 審判の判定に影響を与える声出しやリアクション
- ラインジャッジ（選手）に対して、判定への不満・批判を言う
- ミスをした選手への指導までにはならない暴言
- 得点が入るたびに監督が立ち上がり、相手チームに向かってガッツポーズ
- 得点が入るたびに、ベンチスタッフがサイドライン近くまで出て喜ぶ、またその繰り返し

試合は、練習の成果を出す場面であると同時に勝負が決まる場面でもあります。スタッフは選手がプレーできる環境を整え、安全に試合を進めていけるよう準備をします。審判はプレーを見極め、競技規則のもと試合進行のコントロールを行い、自身の能力の最大を尽くして勝負の得点に繋がる判定を出します。子どもたちが気持ちよく試合に集中でき、得点を得たり失ったりする駆け引きを楽しむことができるのは、審判だけでなく、大人がそれぞれの立場で子どもたちの頑張りを応援し、最後までやりきる姿を賞賛することができているからだと思います。指導者の適切な指導と励ましや応援団の声援は、どれほど子どもたちを勇気づけているでしょう。相手コートにボールを落とした瞬間の審判の笛と歓声も同じだと思います。自分たちと同じく相手も負けない気持ちでプレーをしていますから、双方が悔しい気持ちと戦いながら、勇気を出して仲間とボールを繋げています。プレーに関する決定は、得点になったかどうか、試合結果を含めて最終になります。この決定を受け入れるのは指導者や応援団に必要なマナーでスポーツマンシップと呼ばれるものです。小学生がバレーボールをするためには大人の力が必要です。私たちは、子どもたちにとってだれもが信頼できる大人でなくてははいけません。ルールやマナーは大人が示し伝えていくことが大切です。小学生バレーボールにおけるフェアプレーは、私たち大人から始めていきましょう。

審判委員長 石井雅子

14 指導者の誓い

また、指導者の言葉として、大町バレーボール同好会（広島女子）の齋藤千華監督が「私たち指導者は、選手ファ

上記は、先の第43回全日本小学生バレーボール大会の開会式で、次第に初めて加えられた指導者の誓いの一節であり、公益財団法人日本バレーボール協会 HP のトピックスに掲載されているものです。

選手宣誓とともに指導者もどのような心構えでこの大会に挑んでいるのかについて、端的にしかも明確に表した言葉ではないでしょうか。今回の全国大会成功の一つの力にもなったと考えます。

コンプライアンス委員会からの視点で言うと、今後各都道府県においても、ぜひ取り組んでほしい試みであったと思っています。抽選会の時に、選手宣誓を決めるくじを引くとともに、指導者宣誓のくじ引きも行うのはどうでしょう。プチ盛り上がりがありそうです。

宣誓者には、短い言葉で構いませんから、各自のバレーボール指導に向かう考えを語ってほしいです。これによって指導者どうしの連携も深まりそうです。また、これからの指導者としての姿も見えてくるでしょう。何よりその大会が「子どもがど真ん中にいる」ことを、内外に証明する絶好の機会となることでしょう。

《日本小学生バレーボール連盟 競技委員長から見た 第43回全国大会》

第43回全日本バレーボール小学生大会は、大会スローガン「コートにあふれる笑顔と歓声！！」のもと、まさにコートにたくさんの歓声が戻ってきた大会となりました。

子どもたちと共にコートに立った指導者の皆さんは、ポイントを獲得した場面では子どもたちと共に喜びを表現し、賞賛の声かけをする姿が多く見られました。また、ポイントを取られ苦しい場面でもミスを責めることなく子どもたちが次のプレーで頑張ろうと思えるような声かけをしている姿も見られました。このような姿からも、今大会は指導者宣誓の言葉通り、子どもたちの笑顔と歓声のためにチームスタッフがー丸となってチームの指導に取り組むことができた大会となったと言えると思います。

しかしながら、大会終了後1ヶ月の期間内に、全国大会に参加したチームの指導者によるコンプライアンス事案が報告されています。とても残念なことです。よく、トップアスリートが勝利インタビューで「厳しい練習に取り組んできた成果」という言葉を発します。確かに、全国大会に出場し、素晴らしいプレーを披露するためには、厳しい練習も必要なのかもしれません。ただ大切なことは、子どもたちにとって必要な「厳しさ」とは一体何なのかを今一度見つめ直すことだと思っています。そして、今後もこの大会が子どもたちの笑顔と歓声で満ちあふれる大会になることを、小学生バレーボールに関わる全ての皆さんと共に目指していきたいと思っています。

競技委員長 菅野 裕

終わりに

コンプライアンス委員会

「共育ブック」を皆様に提示してから、3年近くが経ちました。「選手を守る、保護者を守る、そして指導者を守る」ことをねらいに作成した冊子ではありますが、おかげさまで各方面から、「大変参考になった」「研修会で活用した」「新しい知識や情報が得られた」など、好意的な声を多くいただき、編集した者にとってはうれしく感じているところです。

時代の流れとは言え、少子化、スポーツの多様化、地方チームの激減そして感染症による活動の制限等、小学生バレーボールにとっては以前にも増して、大変厳しい状況が続いております。その中であっても、子どもたちの声や保護者の想いを受け入れ、時代に合わせた指導改善に努めながら、地道なチーム運営をなされている指導者の皆様方には、心より敬意を表したいと思えます。

皆様方のご努力により、コンプライアンス委員会に寄せられる事案も件数は、多くなっていますが、個々の内容には、確実に改善傾向が見られつつあります。ここ数年前まで主であった「体罰」「人権侵害が著しい暴言」が少しずつ減少し、「各ハラスメント」や「指導者と保護者間の連絡調整不足」等が目立つようになってきました。日小連やコンプライアンス委員会をはじめ、各都道府県連盟の小学生バレーボール健全化の取り組みの表れであると考えています。しかし、なお、大人たちの勉強不足や情報不足、未熟さによって、バレーボールに惹かれつつも傷つけられたり悩まされたりしている子どもたちは後を絶ちません。いやむしろ増えている状況です。

コンプライアンス委員会は、各事案を双方が納得できる形で解決することと、トラブルにならないような未然防止の取り組み、この2つを柱にここ10年近く取り組んできました。「未然防止」の中核にこの「共育ブック」があります。「共育ブック」発行3年を経過し、これを皆様に提示したことに、ある程度満足感を抱くとともに、まだまだお伝えしたいことがあったという思いと具体的な事案とそのトラブル解決の過程等など他のいろいろな情報も知りたいというお声を数多くいただき、ここに、追記版を発行させていただきました。

「大会があるから、トラブルが発生する」「チャンピオンを決めることが必要なのか」などという声もあがっているのは承知ですが、わがコンプライアンス委員会としては、「トラブルは人の問題である」「組織やしぐみの問題である」という視点で、今後とも啓発活動に全力で取り組んでいきたいと思えます。そして、バレーボールというスポーツが、子どもたちの今の幸せ、これからの幸せにつながるために、日本小学生バレーボール連盟各委員会と連携して、後方・側面から支援し続けていきたいです。

日本代表の男女チームの活躍やハイキュー人気の持続、広がり等、バレーボール界にとって追い風も吹きつつあります。前途は明るい、という希望を持ちつつ、皆さんとともによりよいジュニアスポーツ環境づくりに、これからも邁進していきたいと考えています。ともに頑張りましょう。

共育ブック追記版 編集委員会
(日本小学生バレーボール連盟 コンプライアンス委員会)

委員長 八木田成人(熊本県)
副委員長 竹村和男 (高知県)
委員 阿部 誠 (栃木県)
委員 後藤圭三 (愛知県)
委員 鈴木一弘 (福島県)